

令和8年度「第1回高知県スポーツ振興県民会議」 次第

日時：令和8年7月31日（金）13:00～15:00

場所：高知サンライズホテル 向陽の間

1 開会

- (1) 開会挨拶 知事
- (2) 会長・副会長選出

2 議事

- (1) 第3期高知県スポーツ推進計画の取組状況等について
- (2) 第4期高知県スポーツ推進計画について

3 その他

- ・新県民体育館の整備等について
- ・部活動の地域展開について
- ・令和7年スポーツツーリズムによる経済波及効果等について
- ・高知龍馬マラソン2026の経済波及効果について

4 閉会

資料1-1	第3期高知県スポーツ推進計画について
資料1-2	『柱1 スポーツ参加の拡大』の取組状況等について
資料1-3	『柱2 競技力の向上』の取組状況等について
資料1-4	『柱3 スポーツを通じた活力ある県づくり』の取組状況等について
資料2-1	第4期スポーツ基本計画 中間報告案（スポーツ庁）について
資料2-2	第4期高知県スポーツ推進計画の策定に係るスケジュールについて
資料3	新県民体育館の整備等について
資料4	部活動の地域展開について
資料5	令和7年スポーツツーリズムによる経済波及効果等について
資料6	高知龍馬マラソン2026の経済波及効果について

参考資料1	令和8年度スポーツ施策の取組状況（重点施策）について
参考資料2	令和8年度各部局のスポーツ関連施策の取組状況について

令和8年度第1回高知県スポーツ振興県民会議 出席者名簿

〈五十音順〉

任期：R7.10.1～R9.9.30

NO	氏 名	所 属 ・ 役 職	出欠
1	安 達 諭 香	高知県小中学校長会 副会長	出席
2	池 透 暢	東京2020パラリンピック 車いすラグビー競技日本代表 パリ2024パラリンピック 車いすラグビー競技日本代表	(欠席)
3	井 上 浩 之	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 会長	出席
4	今 城 純 子	公益財団法人高知県スポーツ協会 会長	出席
5	大 坪 豊 寿	公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士	出席
6	上 村 誠	高知県町村会 会長	出席
7	桑 名 龍 吾	高知県市長会 会長	出席
8	小 林 達 司	株式会社四国銀行 取締役頭取	出席 (代理) 橋谷正人
9	小 林 博 隆	大阪体育大学スポーツ科学部スポーツ科学科 准教授	(欠席)
10	櫻 井 つ ぐ み	パリ2024オリンピック レスリング競技日本代表	出席
11	竹 島 晶 代	モスクワオリンピック バレーボール競技日本代表 高知県公立大学法人高知工科大学女子バレー部 監督	出席
12	武 市 光 徳	高知県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 理事長	出席
13	寺 村 妙	合同会社 Stand UP 代表社員 はまゆう教育相談所 はまゆう おむすびの会代表	出席
14	中 平 雅 彦	株式会社高知新聞社 代表取締役会長	出席
15	野 崎 美 香	公益財団法人高知県観光コンベンション協会 国内誘致部長	(欠席)
16	前 田 和 範	高知県公立大学法人高知工科大学経済・マネジメント学群 准教授 一般社団法人高知県スポーツコミッション 理事	出席
17	丸 朋 子	大阪成蹊大学経営学部スポーツマネジメント学科 講師	出席 (オンライン)
18	村 田 正 洋	公益財団法人高知県スポーツ振興財団 高知県スポーツ科学センター センター長	出席
19	矢 野 宏 光	国立大学法人高知大学 副学長 教育学部 教授	出席
20	柳 裕 貴	PERF株式会社 代表取締役社長	出席 (オンライン)

高知県スポーツ振興県民会議条例をここに公布する。

高知県スポーツ振興県民会議条例

(設置等)

第 1 条 この条例は、スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、同条に規定する審議会その他の合議制の機関として高知県スポーツ振興県民会議（以下「県民会議」という。）を設置するとともに、県民会議の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 県民会議は、知事又は高知県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、て次に掲げる事項について調査審議し、及び当該事項に関して知事又は教育委員会に建議する。

- (1) 地方スポーツ推進計画の策定、変更、検証及び評価に関すること。
- (2) スポーツの指導者等の養成及び資質の向上並びにその活用に関すること。
- (3) スポーツ施設（スポーツの設備を含む。）の整備等に関すること。
- (4) スポーツ事故の防止等に関すること。
- (5) スポーツに関する科学研究の推進等に関すること。
- (6) 学校における体育の充実に関すること。
- (7) スポーツ産業の事業者との連携等に関すること。
- (8) 顕彰に関すること。
- (9) スポーツに係る事業の実施及び奨励に関すること。
- (10) スポーツの競技水準の向上に関すること。
- (11) スポーツ団体に対する補助金等の交付に関すること。
- (12) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関し必要な事項

(組織)

第 3 条 県民会議は、委員 25 人以内で組織する。

2 特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、県民会議に臨時委員を置くことができる。

(任命)

第 4 条 県民会議の委員及び臨時委員は、次に掲げる者のうちから、知事が教育委員会の意見を聴いて任命する。

- (1) スポーツ又は学校体育に関する団体の役職員
- (2) 市町村関係団体の役職員
- (3) 学識経験を有する者

(4) 前3号に掲げる者のほか、知事が必要であると認める者

(任期等)

第5条 県民会議の委員の任期は2年とし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

2 臨時委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

3 委員が任命された時における当該職又は身分を失ったときは、委員の職を失う。

(会長等)

第6条 県民会議に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、県民会議を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 県民会議の会議（以下この条及び次条において「会議」という。）は、会長が招集する。

2 会議は、委員及び議事に関係のある臨時委員の総数の半数以上の出席がなければ、議事を開き、及び議決をすることができない。

3 会長は、会議の議長となる。

4 会議の議事は、委員及び議事に関係のある臨時委員のうち、出席した者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席等)

第8条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、及び意見を求めることができる。

(部会)

第9条 県民会議は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会は、会長が指名する委員及び専門委員で組織する。

3 部会に部会長を置き、当該部会に属する委員の互選によって定める。

4 部会長は、当該部会の事務を掌理する。

5 部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、当該部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名した者が、その職務を代理する。

6 前2条の規定は、部会の会議について準用する。

(庶務)

第10条 県民会議の庶務は、高知県観光振興スポーツ部において処理する。

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、県民会議の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

付 則

この条例は、昭和 37 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和 53 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この条例は、平成 16 年 7 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に委員等に委嘱又は任命されている県議会の議員は、当該委員等の任期が満了するまでの間、引き続き当該委員等として在任することができる。この場合において、当該委員等である者の数が当該委員等の定数を超えるときは、当該数をもって当該委員等の定数とする。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県スポーツ振興審議会条例第 1 条の高知県スポーツ振興審議会（以下この項において「従前の高知県スポーツ振興審議会」という。）の委員である者は、この条例の施行の日においてこの条例による改正後の高知県スポーツ推進審議会条例（以下この項において「新条例」という。）第 4 条の規定により高知県スポーツ推進審議会の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる高知県スポーツ推進審議会の委員の任期は、新条例第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、同日における従前の高知県スポーツ振興審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際第 1 条の規定による改正後の高知県部設置条例本則第 5 号カに規定する

事項に係る事務に係る法令、条例、教育委員会規則その他の規程（以下この項において「法令等」という。）の規定により教育委員会がした処分その他の行為で現にその効力を有するもの又はこの条例の施行の日前に法令等の規定により教育委員会に対してなされた申請その他の行為で、同日以後においては知事が管理し、及び執行することとなる事務に係るものは、同日以後における法令等の規定の適用については、知事がした処分その他の行為又は知事に対してなされた申請その他の行為とみなす。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和5年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県スポーツ推進審議会条例第1条の高知県スポーツ推進審議会（以下この項において「従前の高知県スポーツ推進審議会」という。）の委員である者は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）においてこの条例による改正後の高知県スポーツ振興県民会議条例（以下「新条例」という。）第4条の規定により高知県スポーツ振興県民会議（以下「県民会議」という。）の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる県民会議の委員の任期は、新条例第5条第1項の規定にかかわらず、施行日における従前の高知県スポーツ推進審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

- 3 施行日以後最初に新条例第4条の規定により任命される県民会議の委員の任期は、新条例第5条第1項の規定にかかわらず、令和5年8月15日までとする。

附 則

この条例は、令和6年4月1日から施行する。

第3期高知県スポーツ推進計画（令和5年度～令和9年度）について

計画の基本方針（第3期高知県スポーツ推進計画が目指すもの）

本県のスポーツの現状と課題を捉えたうえで、誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境をつくるとともに、青少年の健全育成や女性のスポーツ参加促進、共生社会の実現、生きがいづくりや健康づくり、地域間・世代間などの様々な交流の促進など、スポーツを通じて全ての県民や県内全ての地域を元気にする取り組みを進め、スポーツの楽しさや感動を共有し、希望と活力ある社会の実現を目指す。

また、スポーツを通じて、グローバルな社会課題を解決し、持続可能な世界の実現を目指すための国際目標であるSDGsの達成に貢献する。

目指す姿

スポーツの楽しさや感動を共有し希望と活力ある社会の実現

基本理念

目指す姿の実現に向け2つの基本理念を設定

（1）誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境づくりを推進する

県内すべての地域において、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、誰もがスポーツによって「楽しさ」や「感動」を得られるよう、身近な地域で安心・安全に多様なスタイルでスポーツに親しむことができるとともに競技者や指導者が全国や世界を目指すことができる環境づくりを進める

（2）スポーツを通じて全ての県民や地域を元気にする

楽しさや感動が得られる多様なスポーツ活動を通じて、青少年の健全育成や共生社会の実現、生きがいづくりや健康づくり、地域間・世代間などの様々な交流の促進による地域の活性化など幅広い分野にスポーツの効果をつなげることを目指し、県民や地域を元気にする取り組みを進める



取り組み目標

目指す姿と計画の基本理念に基づき、

以下の3本柱の取り組み目標とこれらに横断的に関わる施策を定め、取り組みを推進する

◆施策の柱1 スポーツ参加の拡大

運動やスポーツが好きな子どもを増やす/全ての地域で多様なスポーツ参加を拡大

将来を見据え、運動やスポーツが好きな子どもを増やすとともに、県民の誰もが身近な地域で安心・安全にスポーツに親しむことができる機会の拡充を図り、「みる」「する」「ささえる」といった多様なスタイルで日常的にスポーツに参加する人口の増加を目指す

◆施策の柱2 競技力の向上

全国や世界で活躍する選手を多数輩出する

有望選手の発掘や系統的・組織的な育成・強化のさらなる充実を図り、全国トップレベルの選手を数多く育成するとともに、オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界トップレベルの大会に出場するなど、日本を代表する選手やそうした選手を支える指導者等を本県から多数輩出することを目指す

◆施策の柱3 スポーツを通じた活力ある県づくり

スポーツを通じて地域や経済を活性化

スポーツツーリズムの推進を通じて、スポーツによる県外からの誘客の増加等を図り、交流人口の拡大、健康づくり、まちづくり、雇用の創出など、地域や経済の活性化につなげる

◆3本の柱に横断的に関わる施策

デジタル技術の活用、産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル技術の革新によるライフスタイルの変化などの社会環境の変化による対応し、持続可能なスポーツ環境づくりを産学官民が連携して取り組みを進めます。



令和9年度が第3期高知県スポーツ推進計画の最終年度となるため、KPIの進捗確認及び施策効果の分析を進めるとともに、国の動向を注視しながら、第4期計画の策定に向けて準備を進めていく

第3期高知県スポーツ推進計画『柱1 スポーツ参加の拡大』の取組状況等について

資料1-2

第3期高知県スポーツ推進計画（R5～R9）の取組状況（令和8年度6月末時点）

項目	R9 目標	設定当初(R4)	R5			R6			R7			R8			R9			指標	進捗状況の基準
			目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度*	目標	実績	達成度		
運動が好きな子どもの割合	R4から 5ポイント増	小5男92.1% 小5女85.9% 中2男89.5% 中2女79.1%	R4から 1ポイント増	小5男93.2% 小5女89.3% 中2男86.3% 中2女77.4%	小5男:S 小5女:S 中2男:D 中2女:D	R4から 2ポイント増	小5男92.5% 小5女84.7% 中2男91.2% 中2女77.5%	小5男:D 小5女:D 中2男:B 中2女:D	R4から 3ポイント増	小5男92.8% 小5女86.6% 中2男90.1% 中2女76.9%	小5男:D 小5女:D 中2男:D 中2女:D	R4から 4ポイント増	今冬公表 予定		R4から 5ポイント増			S	数値目標の達成率 110%以上
成人の週1回以上のスポーツ実施率	65%	51%	－	－	－	－	－	－	65%	37.9%	D	65%	自主調査 予定		65%			A	100%以上 110%未満
障害者が活動できるチームや団体数	37団体	27団体	29団体	29団体	A	31団体	30団体	B	33団体	31団体	B	35団体	31団体	B	37団体			B	85%以上 100%未満
																		C	70%以上 85%未満
																		D	70%未満
																		－	達成度の判断 が困難なもの

KPI達成に向けた主な取組等	R7実績	R8方向性	R8目標値	R8の取組状況	
				実績	今後の取組
(1)子どものスポーツ環境づくり 【事業概要】 市町村が行う子どものスポーツ環境づくりへの支援を行うとともに、複数の市町村が広域で連携する取組について、民間団体の協力や県版地域おこし協力隊の配置などにより、効果的に進める	○子どものスポーツ環境づくりに関係者が連携して体制づくりに取り組んでいる市町村の数 → 16市町村（達成度 D） ○広域で連携した取組が展開できているエリア数 → 4エリア（S）	①市町村の取り組みの充実 ・補助金等による財政支援 ・地域おこし協力隊の配置や地域クラブとの連携強化 ②広域連携事業の促進 ・R7事業（幡多・嶺北）の充実 ・スポーツ指導者の確保・育成 ③部活動地域展開の推進 ・市町村が行う部活動地域展開への支援	①市町村の取り組みの充実 ・子どものスポーツ環境づくりに関係者が連携して体制づくりに取り組んでいる市町村の数 → 29市町村 ②広域連携事業の促進 ・広域で連携した取組が展開できているエリア数→ 4エリア（幡多、嶺北等） ③部活動地域展開の推進 ・地域クラブのクラブ数（部活動の地域展開）→ 50クラブ	①市町村の取り組みの充実 ・子どものスポーツ環境整備推進事業費補助金 → 5市町村 ・日本スポーツ振興センター助成金の情報提供 ②広域連携事業の促進 ・広域で連携した取組が展開できているエリア数 → 2エリア（幡多、嶺北） ③部活動地域展開の推進 ・地域クラブのクラブ数（部活動の地域展開）→ 56クラブ ・第1回広域スポーツハブ促進委員会 →県内6エリアで開催（6月） ・幡多地域に地域おこし協力隊を配置（5月）	①市町村の取り組みの充実 ・さらなる子どもの減少を見込んだ対策の検討 →広域スポーツハブ促進委員会（第2回9月、第3回2月）で市町村への周知 ②広域連携事業の促進 ・幡多エリア（9月～1月） ・嶺北エリア（秋頃事業開始予定） ・仁淀川エリア（事業化調整） ③部活動地域展開の推進 ・高知県における部活動地域展開等に関する市町村協議（7月14日）
(2)若者の関心が高い新たなスポーツの推進 【事業概要】 県内の若者が地域で活躍する場を創出するため、若者が主役となれる参加型イベントの実施により地域の活性化及びスポーツの推進を図る	○イベントへの参加者数 ・アーバンスポーツイベント → BMX 370人、ダンス 822人（S） ・eスポーツイベント → 3,427人（S） ・ジュニア競技大会・体験教室（レスリング） → 304人（D） ・インクルーシブスポーツ → 約100人（D）	①新たなスポーツへの参加促進 ・市町村等が行うアーバンスポーツやeスポーツイベント等の開催支援	①新たなスポーツへの参加促進 ・スポーツイベント実施支援事業費補助金 a:アーバンスポーツ体験教室 → 10件 b:eスポーツ体験教室 → 5件 c:メダリスト等によるスポーツ教室 → 2件	○スポーツイベント実施支援事業費補助金による支援 a:アーバンスポーツ体験教室 → 1件 b:eスポーツ体験教室 → 1件 c:メダリスト等によるスポーツ教室 → 1件（※台風により中止）	○スポーツイベント実施支援事業費補助金による支援 ・補助事業の情報発信による活用の促進 →市町村への働きかけ・情報共有（7月～） →広域スポーツハブ促進委員会（第2回9月、第3回2月）で市町村への周知 ○アーバンスポーツイベントの開催（3月） （スケートボード・ダンス他）
(3)スポーツを支える人材の育成・確保 【事業概要】 有資格のスポーツ指導者の養成やスポーツ指導者をマッチングする取組などにより、地域でスポーツを支援する人材を育成・確保する	○日本スポーツ協会競技別指導者資格 → 1,469人（B） ○日本パラスポーツ協会指導員資格 → 205人（B）	①新たな人材の発掘 ・指導者研修会の開催 ・大学生や社会人の参画促進 ②スポーツ指導者の育成 ・有資格指導者の増加	①新たな人材の発掘 ・地域のスポーツ指導者等を対象とした研修会等の実施 → 6回 ②有資格指導者をR4から6%増 a:日本スポーツ協会競技別指導者資格 → 1,532人 b:日本パラスポーツ協会指導員資格 → 223人	①新たな人材の発掘 ・地域のスポーツ指導者等を対象とした研修会等の実施 → 0回 ・高知県スポーツ振興県民会議内にスポーツ指導者確保推進部会を設置 → 第1回会議開催（5/30）	①新たな人材の発掘 ・地域のスポーツ指導者等を対象とした研修会等の開催（9月以降） ・スポーツ指導者確保推進部会 →第2回会議開催（10月） ②スポーツ指導者の育成 ・日本スポーツ協会公認指導者養成講習会（8月～12月予定） ・パラスポーツ指導員養成講習会（初級）の開催（初級12月・2月中級7月・11月上級8月・11月）
(4)障害者がスポーツに親しめる環境づくり 【事業概要】 障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりや、スポーツ活動を支援する体制の整備、スポーツ大会の開催などにより、障害者のスポーツ参加の拡大や競技力向上を図る	○障害者がスポーツ活動を行うことができる団体数 → 31団体（B） ○障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができているエリアの数 → 3エリア（C）	①身近な地域におけるスポーツ機会の拡充 ・インクルーシブなスポーツ活動の拡大 ・特別支援学校と連携した障害者スポーツの拠点づくり ②選手の発掘・育成 ・県障害者スポーツ大会での有望選手の発掘等	①身近な地域におけるスポーツ機会の拡充 a:障害者がスポーツ活動を行うことができる団体数 → 35団体 b:障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができているエリアの数 → 5エリア ②選手の発掘・育成 ・マッチングする競技団体数 → 1団体以上	①身近な地域におけるスポーツ機会の拡充 a:障害者がスポーツ活動を行うことができる団体数 → 31団体 b:障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができているエリアの数 → 3エリア ・国の事業を活用し、総合型地域SCや特別支援学校と連携し地域におけるパラスポーツ活動の拠点づくり → 事業採択 6月 ②選手の発掘・育成 ・県障害者スポーツ大会の開催（5月）	①身近な地域におけるスポーツ機会の拡充 ・総合型地域SCスクラム(土佐清水市)や四万十市スポーツ協会との連携（7月～2月） ・特別支援学校との連携した拠点づくり（7月～2月） ・地域でのインクルーシブなスポーツ活動の推進（パラスポーツ体験会の実施）（9月～2月） ②選手の発掘・育成 ・有望選手の選考（8月）、競技団体とのマッチング（9月～）

第3期高知県スポーツ推進計画『柱2 競技力の向上』の取組状況等について

資料1-3

第3期高知県スポーツ推進計画（R5～R9）の取組状況（令和8年度6月末時点）

第3期高知県スポーツ推進計画（R5～R9）の取組状況（令和8年度6月末時点）																		指標	進捗状況の基準	
項目	R9 目標	設定当初(R4)	R5			R6			R7			R8			R9			S	数値目標の達成率 110%以上	
			目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度			
全国入賞や国際大会 に出場する選手・団体	200 ※	138	142	175	S	146	205	S	164 ※	221	S	182 ※	40	B	200 ※			A		100%以上 110%未満
全国や世界を目指す 障害者アスリート数	220人	192人	198	206	A	204人	208人	A	210人	256人	S	215	－	－	220人			B		85%以上 100%未満
																		C		70%以上 85%未満
																		D		70%未満
※R9目標値をver.2改訂の際に、160から200に上方修正（途中の年度についても上方修正）																		－		達成度の判断 が困難なもの

KPI達成に向けた主な取組等	R7実績	R8方向性	R8目標値	R8の取組状況	
				実績	今後の取組
（1）競技力向上に向けた強化策 【事業概要】 競技団体が行う系統的かつ計画的な選手の育成・強化活動を支援するとともに、スポーツ医科学面からのサポートを行うことで、各競技団体の組織的な育成・強化体制の充実や障害者の強化活動の充実を図り、本県の競技力向上につなげる	①国民スポーツ大会の成績 → 46位 （獲得得点:670点） 入賞種目数 → 47種目 （令和元年以降、2番目の成績） ②全国中学校体育大会の入賞競技数 → 5競技（達成度 D） ③全国高等学校総合体育大会の入賞競技数 → 9競技（D） ④スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数 → 20競技団体（C）	○積極的に県外遠征を実施している競技団体が、好成績を収めていることから、各競技団体における県外遠征を重視した組織的・計画的な強化活動の推進 ○近年の国スポ等の成績を分析し、各競技団体ごとの育成・強化活動の計画の見直し	①国民スポーツ大会の成績 → 40位前半 （獲得得点目安:780点） ②全国中学校体育大会の入賞競技数 → 8競技 ③全国高等学校総合体育大会の入賞競技数 → 14競技 ④スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数 → 28競技団体	○高知県スポーツ協会の強化・普及委員会（7.8）において、今年度の強化事業の確認を行う ・特別強化選手を増員（10人→12人） ・高知県スポーツ協会と県スポーツ課との定例会 ○スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数 → 12競技団体 主な大会日程 ○第80回国民スポーツ大会（R8.9.3～10.20） ○第81回国民スポーツ大会（冬期大会）（R9.1.26～2.21） 岐阜県・神奈川県・山梨県・岩手県 アイスホッケー・スキー・スケート	○高知県スポーツ協会の強化・普及委員会（9月、11月、3月）において、国スポ等の成績分析を行う ・次年度の重点強化競技及び特別強化選手の選考を行う ・各競技団体に強化事業の成果と課題についての4半期ごとにPDCAシートを提出してもらい、成果と課題を共有し、事業の修正等の助言を行う ○全国高等学校総合体育大会（R8.7.22～8.21） ○全国中学校体育大会（R8.8.17～8.25）
（2）スポーツ医科学の活用 【事業概要】 スポーツ現場において行われる、健康増進や競技力向上に向けた技術練習・トレーニングが年齢、体力、競技特性等に応じて、合理的かつ効率的・効果的に行われるよう、スポーツ医科学の見地から様々なサポートを実施する	①スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数（再掲） → 20競技団体（C） ②スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 → 178人（B） ③高知県スポーツ科学センターと連携する外部スタッフ数 → 26人（B）	○活用できていない競技団体に競技力向上の効果を丁寧に説明し、医科学サポートの積極的な活用を促進 ○現場に向いて指導助言を行う出張サポートのさらなる拡充 ○高知県スポーツ科学センターの体制の強化 ○具体的な年間計画案を高知県スポーツ科学センターから提示したうえで、指導やサポートを実施 ○障害のある方への活用促進	①スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数（再掲） → 28競技団体 ②スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 → 200人以上 ③高知県スポーツ科学センターと連携する外部スタッフ数 → 33人 ④障害のある方のスポーツ医科学の活用推進 → 8人	①スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数（再掲） → 12競技団体 ・高知県スポーツ協会と連携し、競技団体でのスポーツ医科学活用に向けた取組の強化 ②高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 → 24人 ・各市町村のスポーツ推進委員及び県内のすべての中・高等学校に対して、高知県スポーツ科学センターの行う研修支援事業を周知 ③高知県スポーツ科学センターと連携する外部スタッフ数 → 13人 ④障害のある方のスポーツ医科学の活用推進 → 6人	○活用できていない競技団体に競技力向上の効果を丁寧に説明し、医科学サポートの積極的な活用を促進 ・国民スポーツ大会四国ブロック予選中に各会場を回り説明（7月～8月） ○県教育委員会と連携し、部活動の地域展開を進めている市町村に対して、高知県スポーツ科学センターによる指導者講習会を周知し、研修支援事業の活用を促進 ・各市町村との連絡調整（8月～11月）
（3）アスリートのキャリア支援 【事業概要】 高知県アスリートキャリア支援センター（無料職業紹介所）の運用を通して、有望なアスリートや指導者の県内企業への就職支援を実施する	①アスリートキャリア支援センターへの登録企業数 → 4企業（－） ②アスリートや指導者のマッチング成立数 → 0件（－） ＜個別支援＞ ○（株）ISS富士鍛女子硬式野球部の支援 ・指導者の紹介 ・女子野球部のある県内高校への周知 ・練習場所確保のため室戸市と調整	○有望なアスリートや指導者と県内企業のマッチングのさらなる推進 ・高知県アスリートキャリア支援センターの仕組みを県内企業や競技団体に広く周知 ・関係団体との連携による登録企業の掘り起こしの強化 ・企業の人材不足や指導者不足等の課題解決と競技力の向上につなげる	①アスリートキャリア支援センターへの登録企業数 → 9企業 ②アスリートや指導者のマッチング成立数 → 2件	①アスリートキャリア支援センターへの登録企業数 → 4企業 ・高知県企業スポーツ推進協議（6.4）において、本事業の説明を行い、登録検討を依頼 ・第12回全日本大学女子硬式野球春季大会（5.11～5.17）の参加校に対して、本事業を周知（8校） ②アスリート登録数 → 2件 〔○（株）ISS富士鍛女子硬式野球部の取組 ・体験会の実施（5/23,24）→全国の強豪大学や高校等から女子選手16名参加〕	○高知県アスリートキャリア支援センターの仕組みを県内企業や競技団体に広く周知 ・高体連理事会（12月）にて説明予定 ・高知県商工会議所へ事業説明予定 ・高知県経営者協会へ事業説明予定 ○関係団体との連携による登録企業の掘り起こしの強化 ・企業スポーツ推進協議会会員への新規企業に関する調査（9月） ・調査を元に新規企業へ訪問、説明（10月～） 〔○（株）ISS富士鍛女子硬式野球部の取組 ・15名程度を同社の正職員として採用予定〕

第3期高知県スポーツ推進計画『柱3 スポーツを通じた活力ある県づくり』の取組状況等について

資料1－4

1 第3期高知県スポーツ推進計画（R5～R9）の取組状況（令和8年度6月末時点）

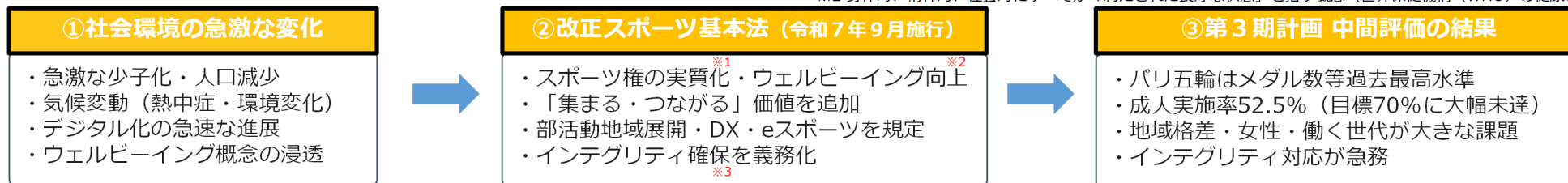
項目	R9 目標	設定当初 (R4)	R5			R6			R7			R8			R9			指標	進捗状況の基準
			目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度	目標	実績	達成度		
スポーツによる県外からの入込客数	12万人	53,161人	63,000人	86,094人	S	7万人	101,309人	S	9万人	99,271人	S	10.5万人	33,318	(D)	12万人	－	－	S	数値目標の達成率 110%以上
																		A	100%以上 110%未満
																		B	85%以上 100%未満
																		C	70%以上 85%未満
																		D	70%未満
																		－	達成度の判断 が困難なもの

KPI達成に向けた主な取組等	R7実績	R8方向性	R8の取組状況	
			実績	今後の取組
(1)プロ・アマチュアスポーツの誘致 【事業概要】 プロ・アマチュアスポーツのキャンプや合宿、大会の誘致を推進し、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる	①プロスポーツ 【R7.1～3】国内外プロ野球チーム春季キャンプ(3チーム) 国内プロサッカーチーム春季キャンプ(3チーム) 【R7.4～12】プロ野球ウエスタンリーグ(4/26,27) 広島サンダースによるバレー教室(6/21) 国内プロ野球チーム秋季キャンプ(3チーム) 阪神タイガース優勝バレード(11/10) 阪神タイガースvs中日ドラゴンズ練習試合(11/11) ②アマチュアスポーツ 【R7.1～12】全日本サフー選手権大会(5/15～17)等 高知県スポーツ合宿支援事業 (申請:97件、実績額:17,608千円) 高知県スポーツ合宿ワンストップ窓口開設(12/25) 須崎市立スケートパーク ※4/1交付決定 86,250千円	新県民体育館の整備を見据え、若年層の誘客促進につながる屋内競技のプロスポーツ大会等の誘致を推進 県内プロスポーツの支援やプロ・アマスポーツ合宿の受入等の拡大に向けた環境整備を推進	①プロスポーツ 【R8.1～3】国内外プロ野球チーム春季キャンプ(3チーム) 国内プロサッカーチーム春季キャンプ(3チーム) プロ野球オープン戦(3/7,8) 【R8.4～6】プロ野球ウエスタンリーグ(4/25,26) ②プロスポーツ(屋内) 【R8.4～6】フレッシュマンズの開催に向けた関西圏等におけるBリーグ及びSVリーグ所属チームへの誘致活動(両リーグ計14チーム) ③アマススポーツ 【R8.1～3】高知県スポーツ合宿ワンストップ窓口対応件数2件:72名 194人泊 【R8.4～6】高知県スポーツ合宿ワンストップ窓口対応件数4件:145名 545人泊 県内観光協会等に向けた窓口活用依頼(計77団体) 須崎市立スケートパークオープニングイベント及びスポーツ教室開催協議	屋内プロスポーツチームの試合実施に向けた広報活動及び観戦時の効果的な演出の実施 ・屋内プロスポーツフレッシュマンズの開催 Bリーグ:神戸ストークスvs広島ドラゴンフライズ(9/5予定) 「 高知県スポーツ合宿ワンストップ窓口 」のさらなる周知に向けた広報の強化 ・就職支援協定締結大学(43大学)への情報提供 ・東京事務所と連携した「よさこい合宿」の誘致 ・実際に窓口を利用した利用者の声を県スポーツツーリズムポータルサイト「スポる! KOCHI」で記事掲載 須崎市立スケートパークオープニングイベント及びスポーツ教室(8/16)の開催支援
(2)地域の特色を生かしたスポーツツーリズムの推進 【事業概要】 地域の特色を生かしたスポーツツーリズムを推進し、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる	①スポーツ大会の開催支援 【R7.4～12】カシオワールドオープン2025大会開催支援(11/27～30)観客数:9,896人 ②サイクルツーリズム 【R7.1～3】サイクルオアシスの整備(2箇所) 【R7.4～12】サイクルオアシスの整備(1箇所) ③高知龍馬マラソン 【R7.1～3】龍馬マラソン2025開催(フルエントリー:10,555人) 【R7.4～12】令和7年度第1回総会開催 参加賞Tシャツデザイン募集開始 龍馬マラソン2026大会募集開始 ランニングセミナー開催(5回)	県内サイクリストの動向等を定量的に把握し、県内のサイクルツーリズム推進に向けた取組を強化 高知龍馬マラソンあり方検討会での協議を基に、中長期的な施策の検討	①スポーツ大会の開催支援 【R8.4～6】Uoマゴルフ日高村オープン開催支援(5/15,16) 観客数:1,360人 カシオワールドオープン2026大会開催に向けた調整・協議 ②サイクルツーリズム 【R8.1～3】サイクリングスタンプラリーの実施(1/23～3/20) 参加者:185人 【R8.4～6】サイクリングアイランド四国推進協議会10周年記念イベントの提案(四国一周・台湾一周イベント) ③高知龍馬マラソン 【R8.1～3】ランニングセミナー開催(2回) 龍馬マラソン2026開催(フルエントリー:11,327人) 【R8.4～6】令和8年度第1回総会開催(6/22) 参加賞Tシャツデザイン募集(6/1～7/31)	県内サイクリストの動向調査を結果を基に、サイクルツーリズム推進に向けた新たな取組を検討 ・動向調査とスタンプラリーイベントの実施(8/1～12/30) ・四国4県で連携した10周年記念イベントの企画・調整 ふるさと納税の仕組みの活用等、高知龍馬マラソンの継続開催に向けたエントリー促進及び収入確保策の検討 ・エントリー確保(8/1～10/31)に向けた各種媒体での広報 ※昨年比1.5倍実施予定 ・オンラインランニングセミナーの初開催 ・ボランティア増加に向けた活動証明書のオンライン発行の実施
(3)地元プロチームとの連携 【事業概要】 高知ユナイテッドSCや高知ファイティングドッグスと連携し、ホーム戦の観客増や観光PR等に取り組み、地域経済の活性化をはかる	①高知ファイティングドッグス 【R7.4～12】阪神タイガースとの交流試合開催(1回) 県民会議DAY開催(1回) 観光PR(ホーム戦:26回、ビジター戦:16回) ②高知ユナイテッドSC 【R7.1～3】観光PR(ホーム戦:3回、アウェイ戦:1回) 【R7.4～12】観光PR(ホーム戦:13回、アウェイ戦:9回) 高知県冠試合の開催(9/14) CF型ふるさと納税(4/25～7/23)延べ490人 19,545千円 【R7年度】企業版ふるさと納税 5社 24,400千円	ホーム戦観戦に係る新規顧客獲得に向け、来場のきっかけとなる取組を強化。	①高知ファイティングドッグス 【R8.4～6】阪神タイガースとの交流イベント実施(4/23) ホーム戦観客獲得企画の試行開始(飲み放題プラン) ②高知ユナイテッドSC 【R8.1～3】観光PR(ホーム戦:2回) 【R8.4～6】観光PR(ホーム戦:4回) 高知県冠試合の開催(5/17) CF型ふるさと納税(4/24～6/17)延べ293人 12,737千円 企業版ふるさと納税 8社 36,000千円 ※R8年6月末時点	ホーム戦観戦に係る新規顧客獲得に向け、来場のきっかけとなる取組を強化 ＜高知ファイティングドッグス＞ ・今年度新たに企画したフード付き飲み放題プランの下期での定例化 ＜高知ユナイテッドSC＞ ・下期の集客予算を活用したホーム戦の渋滞対策の実施(シャトルバスや臨時駐車場利用者向けのノルバティ配布等)
(4)スポーツを通じたインバウンドの誘致 【事業概要】 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン等で関係構築した国等との相互交流や、国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受入により、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる	①合宿や大会の誘致 【R7.4～12】スロバキア陸上チーム受入(9/1～10.14人) ②ゴルフ、サイクリング、マラソン大会 【R7.1～3】龍馬マラソン2025大会開催(海外エントリー:84人) 【R7.4～12】外国語対応観光情報サイトでイベント等の発信 サイクリングを軸としたインバウンド向け旅行商品造成 台南古都国際ハーフマラソンと龍馬マラソンの連携	訪日旅行者が情報収集する際に多用する媒体等を活用した情報発信の強化	①海外チームの事前合宿等の誘致 【R8.4～6】シンガポール・キルギス大使館への事前合宿の案内(5月) ②高知龍馬マラソン 【R8.1～3】龍馬マラソン2026大会開催(海外エントリー:53人) 台南古都国際ハーフマラソン会場での高知県PRブースでの広報 【R8.4～6】龍馬マラソンと台南古都国際ハーフマラソンとの継続した相互交流に向けた調整の実施(男女1名ずつの相互派遣)	ポータルサイトを活用した情報発信のほか、関係部署と連携した広報の強化 ・龍馬マラソンへの海外ランナーのエントリー増に向けた海外ランナー申込サイト「RunJapan」での広報の実施 ※昨年比2倍実施予定 ・台南古都国際ハーフマラソンを通じた高知龍馬マラソンのPR

情報発信 県スポーツツーリズムポータルサイト「スポる! KOCHI」を通して、国内外へ積極的な情報発信

1. 策定の背景（社会の変化とスポーツへの期待の拡大）

※1 年齢、性別、障害の有無、経済状況、居住地域にかかわらず、誰もがスポーツに親しめる環境を整えること
 ※2 身体的、精神的、社会的にすべてが「満たされた良好な状態」を指す概念（世界保健機構（WHO）の健康の定義）



※3 ドーピングや暴力、ハラスメントにさらされることなく、クリーンでフェアかつ倫理的に高潔な状態

2. 第4期計画のねらい

スポーツの「楽しさ」で人や地域の可能性を引き出し、未来を切り拓く

【基本的な考え方】 令和7年の改正スポーツ基本法（ウェルビーイングの向上・スポーツ権の実質化）を踏まえ、スポーツの「楽しさ」＝**する・みる・支える・集まる・つながる**を軸に、3つの重点課題への取組を通じてねらいの実現を目指す。

3. 3つの重点課題と主な数値目標

重点課題1	重点課題2	重点課題3
国民のスポーツ実施促進と「健康インフラ」構築を通じた、ウェルビーイング向上・経済成長・豊かな社会への貢献	ハイパフォーマンスの追求とアスリート等を取り巻く環境整備による成果・知見の社会への還元	スポーツの意義や価値を活かしたスポーツの地域・社会への貢献
・「楽しさ」を軸とした多様なスポーツの推進 ・ライフステージに着目した実施率向上（シームレスな取組） ・多様な背景への施策（女性の実施促進、障害者の機会充実による共生社会） ・スポーツ施策の位置付けの強化 ・実施を促す環境整備（スポーツ関連産業の拡大）	・スポーツ医・科学、情報による多面的で高度な支援 ・スポーツ・インテグリティの強化（ガバナンス体制、競技に専念できる環境） ・キャリア形成支援、特性を生かした組織の活性化	・スポーツの成長産業化（スポーツコンプレックス推進、団体の収益力・財務基盤強化等） ・地域スポーツ資源の活用（まちづくり連携、スポーツツーリズム等の地域活性化等） ・スポーツを通じた国際交流・協力（人材育成、国際大会の招致・開催、官民連携）
主な数値目標(例)	主な数値目標(例)	主な数値目標(例)
・学生期(18～24歳)の実施率：60.9%→65% ・子育て・働き盛り期の実施率：47.2%→55% ・勤務先での運動・スポーツ活用：21.3%→30%以上 ・障害者の実施率：19歳まで50% / 20歳以上40%以上	・メディカルチェックで課題ありとされた女性アスリートの割合：67.4%(R7)→減少 ・誹謗中傷で不安が軽減されたアスリート割合：100%（今後調査）	・スポーツ市場規模：11.6兆円(R4)→15兆円（遅くともR12） ・訪日外国人のスポーツツーリズム関連消費額：800億円

第4期スポーツ推進計画の策定に係るスケジュールについて

令和 8 年度			
4 月			
5 月			
6 月			
7 月	【県民会議（第 1 回）】 ○7/22（水）高知県スポーツ振興推進本部 ○7/31（金）高知県スポーツ振興県民会議		
8 月	【アンケート】 ○アンケート内容の検討・作成 ○配布場所・配布数・回答数（目標）の検討		
9 月	【アンケート】 ○広域スポーツハブ促進委員会（第 2 回） で市町村に事前周知（アンケート実施） ○第 3 期計画 KPIの進捗確認		
10 月		アンケートの 実施	
11 月			アンケートの 集計分析
12 月	○第 3 期計画 KPIの進捗確認 施策効果の分析		
1 月	【県民会議（第 2 回）】 ○1/18（月）高知県スポーツ振興推進本部 ○1/21（木）高知県スポーツ振興県民会議		
2 月			
3 月	○第 4 期計画に反映される 第 3 期計画の課題抽出		



令和 9 年度		
県民会議		第 4 期計画
4 月		○第 3 期計画 KPIの進捗確認
5 月		○第 4 期計画 骨子たたき台作成
6 月	【県民会議等（第 1 回）】 ○高知県スポーツ振興推進本部 ○高知県スポーツ振興県民会議	○関係団体ヒアリング
7 月		○第 4 期計画 骨子案作成
8 月		
9 月		○第 4 期計画素案作成 ○第 3 期計画 KPIの進捗確認
10 月	【県民会議（第 2 回）】 ○高知県スポーツ振興推進本部 ○高知県スポーツ振興県民会議	
11 月		○第 4 期計画 素案策定
12 月		
1 月	【県民会議（第 3 回）】 ○高知県スポーツ振興推進本部 ○高知県スポーツ振興県民会議	○第 4 期計画案提案 パブリックコメント（30日間） ○第 3 期計画 KPIの進捗確認
2 月		○第 4 期計画 最終案策定
3 月		○第 4 期計画策定

基本理念 誰もがスポーツの楽しさや感動を得られ、プロスポーツやエンタメ、文化などを通じたまちづくり・地域活性化の拠点

所在地



【所在地】 高知市桟橋通 2 丁目 1 番 53 号
 アクセス：JR高知駅から車で 7 分、高知龍馬空港から車で 24 分、
 とさでん交通桟橋二丁目電停から徒歩 1 分

【敷地】
 現在の県民体育館、旧南消防署敷地、アスパルこうちグラウンド（全面）
 ※土地の所有者は高知市

【用途地域】
 敷地東側が第一種住居地域、敷地西側が商業地域

基本方針及び整備方針

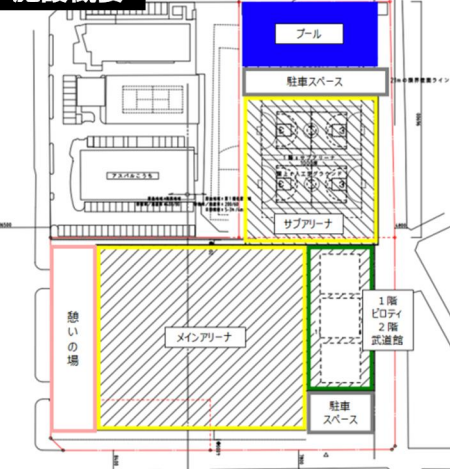
基本方針

- （１）まちづくりの拠点 まちづくりやコミュニティの形成のハブ
- （２）スポーツ振興の拠点 県民のニーズに合ったスポーツを「する」施設
- （３）にぎわいの拠点 スポーツを「みる」という文化の定着
- （４）安心・安全な拠点 ユニバーサルデザイン、一時避難が可能な施設

整備方針

- 1 スポーツをする施設（社会体育施設）に加えて、アリーナ機能を融合した複合施設の整備
- 2 メインアリーナとサブアリーナを備え、「スポーツ」×「エンタメ」を実現し、多目的に活用できる施設として整備
- 3 プロスポーツのレギュレーションやコンサート等の興行に適した規模・機能の整備
- 4 県立武道館を移転・集約化する整備
- 5 高知ちばさんセンター大ホールの機能を集約し、展示会等のMICEの開催が可能な規模・機能の整備
- 6 「稼げる」施設となるよう、諸室の効率的な運用や飲食スペースの設置などが可能な整備
- 7 老若男女、特に若者や子どもが集い、多世代で楽しみ、交流できる憩いの空間の整備
- 8 ユニバーサルデザインに対応した整備
- 9 災害時の避難機能を備えた整備
- 10 県の財政状況を踏まえ、コスト圧縮や国の有利な起債なども積極的に活用した整備

施設概要



※施設構成、機能および規模は現時点で想定する内容であり、今後具体的な利用形態の想定を精査する中で変更することがある

【主な施設規模】

- メインアリーナ**：バスケットボールコート 3 面、観客席 5,000 席以上（最大）
 ⇒全国規模のアマチュア競技大会、プロスポーツの試合、音楽コンサート、大規模展示会など多目的に使用
- サブアリーナ**：バスケットボールコート 2 面、観客席 500～1,000 席程度
 ⇒主に競技大会に使用
- 武道館**：試合場 3 面、観客席 300 席以上
- プール**：25m×6～8 コース程度（うち 1 コースはスロープ）
 ⇒障害のある方も利用できるインクルーシブなプール
- 駐車場**：250 台以上（地下駐車場の選択肢を含む）

※延床面積の想定は約 17,000～19,000㎡（ピロティ、地下駐車場除く）

イメージパース



スケジュール

令和 8 年度 (2026)	令和 9 年度 (2027)	令和 10 年度 (2028)	令和 11 年度 (2029)	令和 12 年度 (2030)	令和 13 年度 (2031)
公募 手続	基本設計 実施設計		公募 手続	建設工事	
	解体 設計	公募 手続	解体工事		開館 準備
	各種 調査				
					供用開始時期は 令和 13 年度半ば を目指す

概算コスト等

整備コスト

<試算の前提>

参考となる他のアリーナ11施設の整備費を踏まえ、1㎡あたりの整備単価を算出し、想定延床面積を乗じる等の試算により、整備の概算コストを**208.9億円**と見込む

着工が予定される令和10年には、**さらなる建設費高騰により、事業費の上振れ**が見込まれる

収支の見通し

<試算の前提>

県内にプロスポーツがない時期を「するスポーツ中心時期」、県内にプロスポーツチームが誕生し、新県民体育館をホームアリーナとして試合を開催している時期を「する+みるスポーツ時期」として分け、利用料金を現在の県民体育館の水準をベースに2倍又は1.5倍の場合をそれぞれ試算

県の財政負担（指定管理代行料）は年間**1.6億円～1.9億円程度**が見込まれる

経済波及効果

完成後30年間で**1,089億円**を超える効果が見込まれる

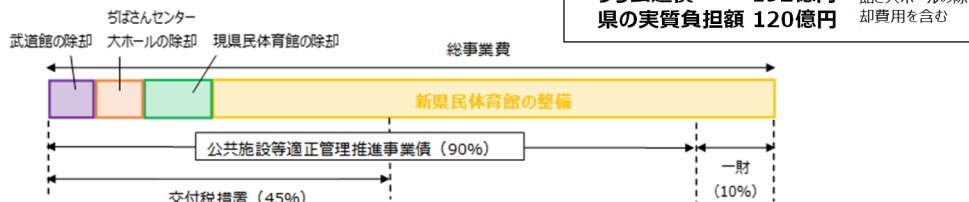
（単位：百万円）

	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
建設による波及効果	20,890	6,257	3,803	30,950
維持管理運営による波及効果	5,985	1,511	1,061	8,558
イベント来場者による波及効果	46,364	15,698	7,408	69,470
合計	73,239	23,466	12,272	108,977

財源内訳

- 公共施設等の集約化・複合化を図り整備する場合に活用できる「**公共施設等適正管理推進事業債（公適債）**」を整備費に充当
- 対象事業費における起債充当率90%、交付税措置率50%の有利な制度

<公共施設等適正管理推進事業債の充当イメージ>



防災対策

<課題>

- ・津波浸水エリアに立地しており、南海トラフ地震（L2クラス）の発生で、**2～3mの津波浸水、津波到達時間40～60分**が予想される。
- ・現在の県民体育館は、「指定避難所」に指定されているが、「**指定緊急避難場所**」には指定されていない。

<対策>

- 「**指定緊急避難場所**」への指定
- 「**指定避難所**」への指定及び収容可能人数分の備蓄スペースの確保
津波発生などの非常時において、メインアリーナの2階以上の観客席やコンコース、サブアリーナの屋上などに緊急一時避難ができ、収容可能人数分の備蓄を保管するスペースを確保する など
- **地下駐車場を整備する場合の対策**
・内水氾濫の浸水対策として地下駐車場の出入り口に止水板や土嚢等の設置 など
・津波の浸水対策として地下駐車場から垂直避難ができる階段（ルート）を複数確保 など
- **避難訓練などのソフト対策** ・定期的な避難訓練の実施 など

事業手法

<結論>

定量的評価と定性的評価を踏まえた総合評価の結果、**設計・施工・運営を分離して発注する「従来方式」**を採用

<考え方>

定量的評価では、PFI等の官民連携手法は従来方式と比較して、公共負担額を最大3.8%（現在価値ベース）削減できる試算となったが、「県民等の意見反映」「状況変化やリスクへの対応」などの観点を重視した定性的評価や新県民体育館が社会体育施設としての機能を有することなどを踏まえ総合的に判断した結果、最も適した事業手法は「従来方式」と結論づけた。

なお、実施にあたっては、サウンディング調査などによる市場動向等の把握や、発注者支援業務の導入等により、不調・不落の回避や工期の確実な遵守に努める。

教育的配慮事項

- **高知市教育施設**（高知市青年センター、高知市教育研究所、高知市立潮江中学校分校教室（学びの多様化学校）及び潮江市民図書館）の**教育活動**や一般市民に対する文化的サービスに配慮する
- 新県民体育館の敷地として**アスバルこうちのグラウンドを全面使用することへの代替措置**として、グラウンド敷地に建つサブアリーナの屋上に**人工芝等**を敷設し、**児童・生徒が運動や活動のために優先的に使用できるスペースを設置する**
- **県と高知市教育委員会**で**定期的な協議の場**を設け、新県民体育館の供用開始後も、施設管理者と高知市教育委員会**で定期的な協議の場**を設ける など
- この他、アスバルこうちのグラウンドを全面使用するにあたり、**高知市教育委員会**が求める「**教育的な配慮**」について**最大限の配慮を行うこと**とし、具体的な内容については、県と高知市教育委員会が開く定期的な協議の場で決めていく

基本方針

- (1) まちづくりの拠点 まちづくりやコミュニティの形成のハブ
- (2) スポーツ振興の拠点 県民のニーズに合ったスポーツを「する」施設
- (3) にぎわいの拠点 スポーツを「みる」という文化の定着
- (4) 安心・安全な拠点 ユニバーサルデザイン、一時避難が可能な施設

敷地・施設規模

※施設規模は現時点の想定であり、今後の検討で変更の可能性あり

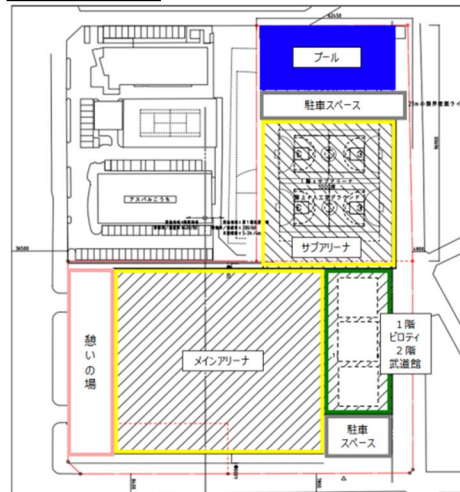
【敷地】

現在の県民体育館、旧南消防署敷地、アスパルこうちグラウンド（全面）

【主な施設規模】 ※延床面積約17,000～19,000㎡（ピロティ、地下駐車場除く）

- メインアリーナ：バスケットコート3面＋観客席5,000席以上
- サブアリーナ：バスケットコート2面＋観客席500～1,000席程度
- 武道館：試合場3面
- プール：25m×6～8コース程度（うち1コースはスロープ）
- 駐車場：250台以上（地下駐車場の選択肢を含む）

平面図



整備方針

- 1 **スポーツをする施設（社会体育施設）に加えて、アリーナ機能を融合した複合施設の整備**
- 2 メインアリーナとサブアリーナを備え、「スポーツ」×「エンタメ」を実現し、多目的に活用できる施設として整備
- 3 プロスポーツのレギュレーションやコンサート等の興行に適した規模・機能の整備
- 4 県立武道館を移転・集約化する整備
- 5 高知知ばさんセンター大ホールの機能を集約し、展示会等のMICEの開催が可能な規模・機能の整備
- 6 「稼げる」施設となるよう、諸室の効率的な運用や飲食スペースの設置などが可能な整備
- 7 老若男女、特に**若者や子どもが集い**、多世代で楽しみ、交流できる憩いの空間の整備
- 8 **ユニバーサルデザイン**に対応した整備
- 9 **災害時の避難機能**を備えた整備
- 10 県の財政状況を踏まえ、コスト圧縮や国の有利な起債なども積極的に活用した整備

6月補正予算の概要

新県民体育館の整備に関する基本計画を令和8年6月に策定。整備に向け必要な調査や設計を行い、令和10年度の着工、令和13年度半ばの供用開始を目指す。

- (1) **基本設計・実施設計委託料** **67,359千円【債務負担】437,132千円**
委託内容：新県民体育館の整備に向けた基本設計及び実施設計
委託先：設計事業者 契約方法：随意契約（プロポーザル方式）
- (2) **コンストラクションマネジメント(CM)業務委託料** **【債務負担】96,635千円**
委託内容：工程管理やコスト管理など建築設計の発注者支援
委託先：CM事業者 契約方法：随意契約（プロポーザル方式）
- (3) **解体設計委託料** **12,056千円**
委託内容：現在の県民体育館と旧南消防署の解体に向けた設計（アスベスト調査を含む）
委託先：設計事業者 契約方法：指名競争入札
- (4) **各種調査委託料** **138,512千円**
 - 測量調査委託料 4,444千円
 - 地質調査委託料 31,196千円
 - 工損調査（周辺家屋事前調査）委託料 102,872千円
- (5) **事務費** **600千円**
設計段階から運営の専門家の意見を取り入れるため委嘱するアドバイザーの報償費など

イメージパース



スケジュール

供用開始時期は令和13年度半ばを目指す

令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	令和12年度 (2030)	令和13年度 (2031)
公算 手続	基本設計 実施設計 CM業務		公算 手続	建設工事	
	解体 設計	公算 手続	解体 工事		開館 準備
	各種 調査				

事業概要

◆部活動地域展開等の推進

・高知県の子どもたちが、将来にわたって継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保するため、各市町村の取組を支援

◆部活動指導員の配置

・部活動における生徒への指導内容の充実及び教員の負担軽減を図るため、部活動指導員を配置

現状・課題

◆県内の状況

【地域クラブ活動】46クラブ(R7) 【拠点校部活動】9部活動(R7)

【部活動指導員】中学校 65名(16市町村) ※高等学校59名(22校)

◆県アンケート調査結果(R7.7月)

【保護者】地域展開に肯定的: 51.9% (R4:23.5%) ※送迎の負担が不安⇒7割

【教職員】部活動が負担: 73.4% (R4:63.1%) ※理由:休日の活動や大会等

◆課題

「指導者の確保」、「財源の確保」、「生徒の移動手段」



県の方針

Step 1

令和10年度までに、原則、教員が休日に指導を行わない体制へ移行

・(a)部活動指導員の活用、(b)地域クラブ活動、(c)休日は(原則)部活動を行わない から選択
・地域に人材が不在の場合や指導を希望する場合は、教員が「兼業」で地域クラブを指導

Step 2

令和13年度末までを目安に、休日の学校部活動は地域クラブ活動へ移行

R8取組内容

〔申請数〕

①休日の地域クラブ活動の活動費等の支援 <国1/3、県1/3、市町村1/3> **7市町村**

②推進体制の整備等 <国1/3、県1/3、市町村1/3> **6市町村**

③平日を含めた地域展開等の加速化 <国10/10> **7市町**

④部活動指導員の配置 <国1/3、県1/3、市町村1/3> **20市町村
76名**

⑤経済的困窮世帯の生徒への支援 <国10/10> **2市**

補助金活用市町村: **25市町村** (地域展開①～③活用市町村: **13市町村**)

今後の動き(中学校)

R5～R7

〔国〕

【R5～R7年度：改革推進期間】

取組可能な部活動から推進

〔県〕

地域の実情に応じて、部活動の
地域連携・地域移行を推進

課題の洗い出し及びその対応策の検討
実証事業の検証、県の方針の策定

【県総括コーディネータの配置】(R6～)

〔市町村〕

【地域移行実証事業(R7)】3市
【地域連携実証事業(R7)】5市町
【部活動指導員(R7)】16市町村65名

R8～R10

【R8～R10年度：改革実行期間】〔前期〕

令和10年度までを重点期間とし、集中的に取り組む

R8

部活動地域展開等を加速化する

地域クラブへの支援

広域での取組支援

受け皿整備への支援

指導者の確保・育成

【県総括コーディネーターの配置】



中間評価

R11～R13

【改革実行期間】〔後期〕

中間評価を踏
まえた取組を
検討・推進



部活動地域展開等に対する取組を実施

休日の地域クラブ活動の推進

推進体制を整備

部活動指導員の配置

経済的困窮世帯への支援

平日の実証事業



○休日の活動は地域
クラブにて実施する
体制へ展開
○平日も可能な限り
取り組む

高知県では、スポーツツーリズムによる県外からの入込客数の増加を図るため、プロ・アマチュアスポーツのキャンプや大会、合宿の誘致活動や、受入体制の充実を図る取組を推進しており、令和7年(1月～12月)に行われたプロ・アマチュアスポーツのキャンプや大会、合宿等(県外からの参加者・観戦者に限る)による経済波及効果を算出。

1 経済波及効果及び社会的効果

経済波及効果 4,587百万円

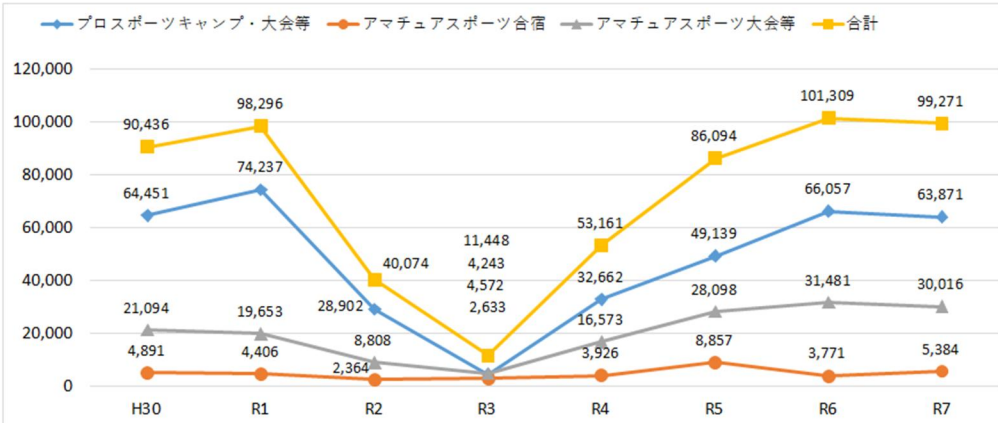
直接効果	間接1次効果	間接2次効果	合計
3,073百万円	1,015百万円	499百万円	4,587百万円

- (注意)
- ・県外からのスポーツキャンプ・大会・合宿等の参加者及び観客が、高知県内で消費した金額に基づいて算出しています(県内からの参加者・観客は算出に含んでいません)。
 - ・なお、キャンプ・合宿誘致や大会の開催等に伴う事業費は、算出に含んでいません。
 - ・高知龍馬マラソンのみ県内参加者及び観客の消費額や開催に伴う事業費を含んでいます。

期待される社会的効果

- ①地域コミュニティの形成
合宿受入や大会ボランティア等を通じて、選手や住民同士の交流の活性化
- ②地域アイデンティティの醸成
チームの応援や受入を通じて地域への誇りや愛着の醸成
- ③地域情報の発信
選手等による地域の食や文化、人の温かさ等の魅力の情報発信
- ④スポーツ参加の拡大
選手との交流やスポーツ教室の開催、観戦機会の増加等による意識醸成
- ⑤青少年への影響
プロスポーツを身近に見られる環境、合宿相手との練習試合や交流等

2 スポーツ関連イベントによる県外からの来客数

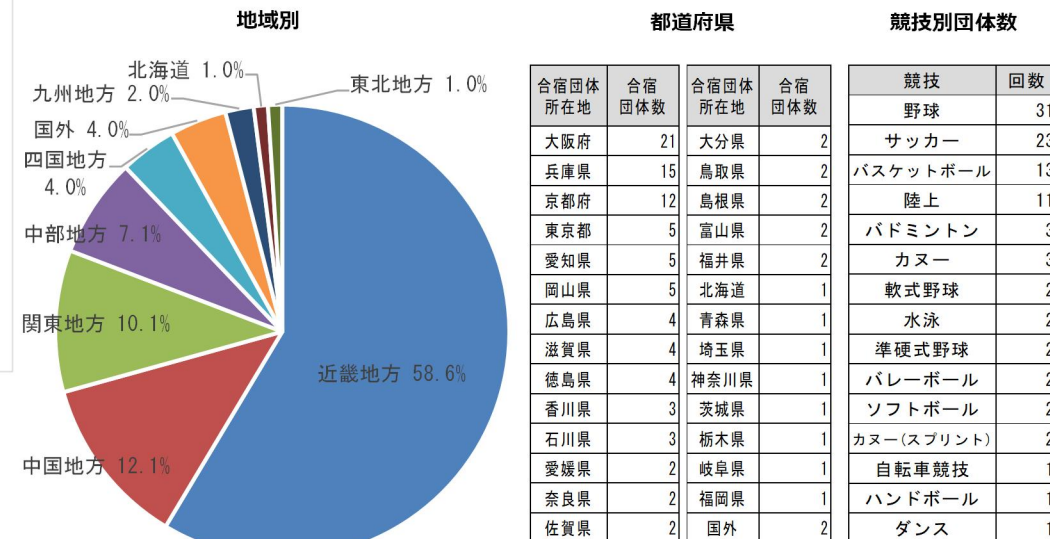


＜主なポイント＞

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降、全体的に入込客数が落ち込んでいるが、令和4年以降は回復傾向にあり、令和6年はコロナ禍以前を上回る県外からの入込客数まで回復した。
- ・アマチュアスポーツ合宿は、気象庁から令和6年8月に発表された「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」の影響を受け、令和5年に比べて減少した。
- ・令和7年は令和6年と比較して、女子プロゴルフ大会の開催がなくなったことにより入込客数は減少したが、宿泊を含めた延べ人数は約2万人増加した。

3 アマチュアスポーツ合宿の受入状況

※R7 高知県アマチュアスポーツ合宿支援事業助成金交付団体の実績



令和7年スポーツツーリズムによる経済波及効果等について

県では、スポーツツーリズムによる県外からの入込客数の増加を図るため、プロ・アマチュアスポーツのキャンプや大会、合宿の誘致活動や、受入体制の充実を図る取組を推進しております。

このたび、令和7年のプロ・アマチュアスポーツのキャンプや大会、合宿等の実績などを基に、スポーツツーリズムによる経済波及効果を算出しました。

併せて、スポーツツーリズムがもたらす社会的効果をまとめました。

引き続き、経済的・社会的効果を一体的に捉えて施策を進めてまいります。

記

1 経済波及効果

(1) R7 経済波及効果 **4,587 百万円**

(R6:3,712 百万円、対 R6 年比+875 百万円)

※ スポーツツーリズム課調べ

(2) 算出対象 ① 令和7年のスポーツを通じた県外からの入込客数 : 99,271 人

② 高知龍馬マラソン 2025 の県内参加者数 : 5,818 人

<内訳>

直接効果	間接1次効果	間接2次効果	合 計
3,073百万円	1,015百万円	499百万円	4,587 百万円

※ 平成27年高知県産業連関表の40部門表を用いて試算。

※ 県外からのスポーツキャンプ・大会・合宿等の参加者及び観客が、県内で消費した金額に基づいて算出（県内からの参加者・観客は算出に含まない。）。

※ なお、キャンプ・合宿誘致や大会の開催等に伴う事業費は、算出に含まない。

※ 高知龍馬マラソンのみ、県内参加者及び観客の消費額や開催に伴う事業費を含む。

【用語】

直 接 効 果：消費を満たすために行われる、県内での最初の生産活動

間接1次効果：直接効果で使用する原材料の生産活動

間接2次効果：上記の生産活動から生じる雇用者所得等を基に消費される財・サービスの生産活動

2 スポーツツーリズムを通じた社会的効果

① 地域コミュニティの形成

（合宿受入や大会ボランティア等を通じて、選手や住民同士の交流の活性化）

② 地域アイデンティティの醸成

（チームの応援や受入を通じて地域への誇りや愛着の醸成）

③ 地域情報の発信

（選手等による地域の食や文化、人の温かさ等の魅力の情報発信）

④ スポーツ参加の拡大

（選手との交流やスポーツ教室の開催、観戦機会の増加等による意識醸成）

⑤ 青少年への影響

（プロスポーツを身近に見られる環境、合宿相手との練習試合や交流等）

補足説明

1 推計範囲及び推計方法

区 分	県外からの 入込客数	県外からの 延べ人数	総消費額
① プロスポーツキャンプ・ 大会等	63,871 人	141,348 人	2,121,826 千円
② アマチュアスポーツ合宿	5,384 人	29,851 人	328,540 千円
③ アマチュアスポーツ大会等	30,016 人	74,093 人	1,140,300 千円
合 計	99,271 人	245,292 人	3,590,666 千円

※ 推計範囲は、区分①～③とします。

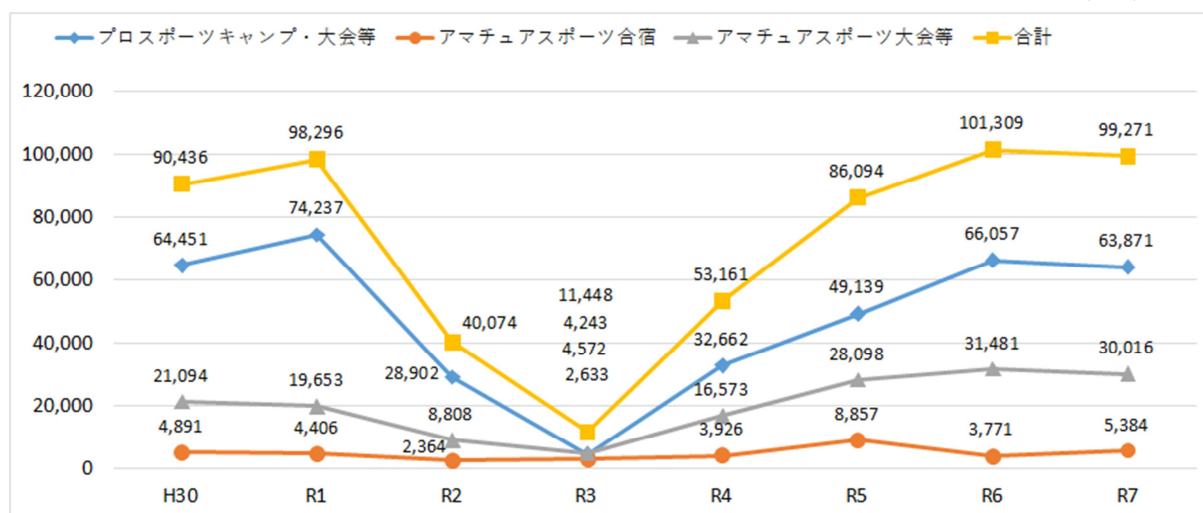
※ 総消費額：3,591百万円－地域外に流出した額：518百万円＝直接効果：3,073百万円

※ 入込客数及び延べ人数の推計方法は、「令和7年県外観光客入込・動態調査」及び「主催者の公表」、「高知県観光コンベンション協会のスポーツ合宿助成事業及びコンベンション開催支援事業における助成金利用実績」、「高知県共催及び後援事業利用実績（スポーツ大会等）」、「高知龍馬マラソン等のスポーツ大会開催実績」、「高知ファイティングドッグス、高知ユナイテッドSCの観客者等」をもとに推計。

※ 総消費額は、「令和6年県外観光客入込・動態調査プロスポーツキャンプ等調査における平均観光消費額」、「高知県観光コンベンション協会が実施したアンケート調査における平均消費額」、「高知龍馬マラソン観戦者アンケート調査における平均消費額」をもとに推計。

2 スポーツを通じた県外からの入込客数の推移

(暦年)



<主なポイント>

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降、全体的に入込客数が落ち込んでいるが、令和4年以降は回復傾向にあり、令和6年はコロナ禍以前を上回る県外からの入込客数まで回復した。
- アマチュアスポーツ合宿は、気象庁から令和6年8月に発表された「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の影響を受け、令和5年に比べて減少した。
- 令和7年は令和6年と比較して、女子プロゴルフ大会の開催がなくなったことにより入込客数は減少したが、宿泊を含めた延べ人数は約2万人増加した。

3 プロスポーツキャンプ等の開催状況

(1) プロ野球春季キャンプ等

チーム名等	キャンプ施設	キャンプ等の期間
埼玉西武ライオンズ	高知県立春野野球場	R7/2/1～25 (25 日間)
ハンファイーグルス 【韓国】	高知県立春野野球場	R7/2/5～3/3 (27 日間)
KIA タイガース 【韓国】	高知市東部球場	R7/1/31～2/28 (29 日間)

(2) Jリーグ春季キャンプ

チーム名	キャンプ施設	キャンプ期間
ブラウブリッツ秋田	高知県立春野補助競技場	R7/1/10～24 (15 日間)
徳島ヴォルティス	高知県立春野球技場	R7/1/13～18 (6 日間)
カターレ富山	高知県立春野球技場	R7/1/21～2/20 (31 日間)
アルビレックス新潟	高知県立春野陸上競技場	R7/2/5～14 (10 日間)
FC 今治	高知県立青少年センター 陸上競技場	R7/1/18～2/2 (16 日間)

(3) プロ野球秋季キャンプ

チーム名	キャンプ施設	キャンプ期間
阪神タイガース	安芸市営球場	R7/11/1～17 (17 日間)
中日ドラゴンズ	高知県立春野野球場	R7/11/1～19 (19 日間)
オリックス・バファローズ	高知市東部球場	R7/11/6～20 (15 日間)

(4) プロゴルフ大会

大会名	開催場所	開催期間
カシオワールドオープン ゴルフトーナメント	Kochi 黒潮カントリー クラブ	R7/11/27～30 (4 日間)

高知龍馬マラソン 2026 の経済波及効果はおよそ 6 億 3 千 6 百万円

高知龍馬マラソン実行委員会では、令和 8 年 2 月 15 日（日）に開催された「高知龍馬マラソン 2026」の、高知県内における経済波及効果を算出いたしました。概要は以下のとおりです。

1. 推計範囲及び推計方法

(1) 推計範囲

区分	内容
運営費及び 雇用者所得	【運営費】 給水・給食・特別賞等の購入、大会募集チラシ・プログラム等の印刷、委託料（運營業務・警備・報道放映・仮設トイレ設置・輸送バス運行等）ほか 【雇用者所得】 大会ゲスト・医師・看護師等謝金ほか
出走者数	宿泊費・交通費・飲食費・土産代等 （大会参加者へのアンケート結果から支出額を推計） 11,068人 県内：6,073人（フルマラソン：5,620人、ペアリレー：453人、54.9%） 県外：4,995人（フルマラソン：4,709人、ペアリレー：286人、45.1%）
観客数	飲食費 （総務省統計局 小売物価統計調査のお弁当及び飲料の価格（令和 8 年 2 月）を引用し、観客数に購入割合を掛け合わせた数字から支出額を推計） 57,000人 （映像などから沿道・フィニッシュ会場の観客数を推計）
出店売上	前日・当日の出店（20）の売上

(2) 推計方法

上記をもとに平成 27 年高知県産業連関表の 40 部門表を用い、需要に対しての直接的な生産活動である「直接効果」、それに投入される原材料の生産活動である「間接 1 次効果」、生産活動の結果生じた雇用者所得等から消費に転化される「間接 2 次効果」までを計算しました。

2. 2026 大会経済波及効果 **636,448 千円**

（2025 大会：566,229 千円 対前回大会比 +70,219 千円）

直接効果	間接 1 次効果	間接 2 次効果
430,414 千円	135,310 千円	70,724 千円

3. 過去大会との比較

	2017	2018	2019	2020	2023	2024	2025	2026
経済波及効果	380,018千円	446,159千円	470,957千円	479,470千円	374,520千円	417,347千円	566,229千円	636,448千円
出走者数	10,140人	11,194人	11,956人	11,816人	6,988人	8,919人	10,264人	11,068人
(うち県外)	4,612人	4,777人	4,949人	4,819人	2,848人	3,617人	4,446人	4,995人
観客数	62,000人	65,000人	66,000人	58,000人	55,000人	56,000人	57,000人	57,000人

<主なポイント>

前年度 10,264 人だった出走者数が 11,068 人（＋804 人）に増加したことに加え、県外からの参加者の人数が前年度の 4,446 人から 4,995 人（＋549 人）に増加したことが、経済波及効果を押上げる結果となった。

令和 8 年度 スポーツ施策の取組状況（重点施策）

○第 3 期高知県スポーツ推進計画の総括評価基準

評価区分	達成状況
S	数値目標の達成率 110%以上
A	// 100%以上110%未満
B	// 85%以上100%未満
C	// 70%以上 85%未満
D	// 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

令和8年6月末時点

重点事業の取組状況確認資料（令和8年度6月末時点）【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和８年度末の目標値	実績 (Ｒ８．６月末時点)	６月末時点の達成度
子どものスポーツ環境整備事業	市町村が行う子どものスポーツ環境づくりへの支援を行うとともに、複数の市町村が広域で連携する取組について、民間団体の協力や県版地域おこし協力隊の配置などにより、効果的に進める	①子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村数 → 34市町村 ②広域で連携した取組が展開できているエリア数 → 6エリア ③子どもの体力・運動習慣の向上 → 小中学生の男女とも全国平均を上回る	① 29市町村 ② 4エリア ③ 小中学生の男女とも全国平均を上回る	① 5市町 ② 2エリア ③ 12月調査結果公表	① (D) ② (S) ③ －

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)市町村の取組の充実 ①子どものスポーツ環境整備推進事業費補助金による財政支援（４月～） ②地域おこし協力隊による地域でのスポーツ指導 ・ダンス（授業や部活動の支援、地域でのWS） ・リズムトレーニング（地域でのWS等） ・サッカー（部活動や地域クラブでの指導） (2)広域で連携する取組の推進 ①広域スポーツハブ促進委員会（６エリア）の開催 年３回：６月、９月、２月 ②広域連携事業の実施 ・幡多エリア・嶺北エリア（11月～１月） そのエリアで実施されている様々なスポーツを体験し、自分に合ったスポーツを見つける取り組み ・その他のエリア（２エリア：８月～） 地域でスポーツ指導できる人材の発掘等 (3)民間活力による効果的な活動の展開 ①高知県スポーツコミッションと連携した指導者養成 ・地域で指導する人材向け研修会等の開催（６回） ②PERF(株)と連携したダンスを活用した取組 ・ガバメントクラウドファンディングの実施（4/27～7/25） ・リモート等を活用したダンス教室の開催（幡多地域） ③高知イノベーションベースとの連携 ・お城でダンスイベント（11月）への協力 (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 ①地域おこし協力隊による地域でのスポーツ指導【再掲】 ・ダンス（授業や部活動の支援、地域でのWS） ・リズムトレーニング（地域でのWS等） ・サッカー（部活動や地域クラブでの指導） ②地域おこし協力隊（幡多地域） 地域おこし協力隊の募集（４月～）	(1)市町村の取組の充実 ①子どものスポーツ環境整備推進事業費補助金による財政支援(交付決定：5市町) (2)広域で連携する取組の推進 ①広域スポーツハブ促進委員会の開催（６エリア） 第１回：安芸6/1、高幡６/5、仁淀川6/8、幡多6/9、物部川6/11、嶺北6/19 ②広域連携事業の実施 ・幡多エリア：第１回担当者打合せ（6/9） (3)民間活力による効果的な活動の展開 ①高知県スポーツコミッションと連携した指導者養成 ・高知県スポーツコミッションとの定例会（毎月） ②PERF(株)と連携したダンスを活用した取組 ・ガバメントクラウドファンディングの実施（6月末） （目標：200万円 実績：203万円 達成率：101.7%） ・リモート等を活用したダンス教室の開催（幡多地域） (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 ①地域おこし協力隊による地域でのスポーツ指導 ・ダンス（授業や部活動の支援、地域でのWS） ４月（４団体）、５月（３団体）、６月（４団体） ・リズムトレーニング（部活動の支援、地域でのWS） ４月（２団体）、５月（１団体）、６月（４団体） ・サッカー（部活動や地域クラブでの指導） ４月（９団体）、５月（９団体）、６月（５団体） ②地域おこし協力隊（幡多地域） 地域おこし協力隊の配置（5/21）	(1)市町村の取組の充実 ・さらなる子どもの減少を見込んだ環境の整備が必要 (2)広域で連携する取組の推進 ・移動手段の確保が困難で広域の拠点に集まって行う活動の充実が図りにくい (3)民間活力による効果的な活動の展開 ・事業に関わる関係者や企業を増やし、取り組みの充実を図ることが必要 (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 ・協力隊任期終了後の活動について、支援できる体制が必要	(1)市町村の取組の充実 ・幼児期の運動習慣定着に関する理解啓発の充実 ・大人のスポーツ活動への子どもの受け入れ促進 ・多世代が一緒に行う活動の促進 (2)広域で連携する取組の推進 ・広域で運用できる移動手段の研究 (3)民間活力による効果的な活動の展開 ・県と包括協定を締結している企業への協力依頼 (4)県版地域おこし協力隊配置による活動推進 ・現在の活動状況と本人の希望を把握するとともに、退任後の活動事例について情報提供を実施	○子どものスポーツ環境づくり ・さらなる子どもの減少を見込んだ地域全体で子どものスポーツ活動を支える仕組みづくりの検討

重点事業の取組状況確認資料（令和8年度6月末時点） 【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和８年度末 の目標値	実績 (Ｒ８．６月末時点)	６月末時点の 達成度
高知県パスウェイシステム事業 (マッチングプログラム)	スポーツの楽しさを知り、スポーツに親しむ子どもを増やすため、親子で楽しむ運動プログラムや自分の運動特性を知ることができる多様な種目の体験会などを県内各地で提供する	マッチングプログラムの参加者数 →毎年、前年比10%増のＲ５からの 累計9,500人 (R4時点：1,420人)	2,079人 (R８年度) 7,249人 (累計)	0人 (R7.6月末時点) 5,913人 (累計)	(－)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)マッチングプログラム Ⅰ：「スポーツに出会う」 【目的】 気軽に参加でき、楽しく体を動かすことができる運動プログラム 【対象】幼児(４歳)から小学６年生 【回数】県内各地１回以上 【定員】各回200名程度 Ⅱ：「スポーツを体験する」 ①キッズスポーツ体験会 【目的】 自分に合う競技を見つけることができるきっかけづくりを目的とした多様な競技体験会の機会を提供する 【対象】 小学３年生から小学６年生 【回数】県内各地３回以上 【定員】各回40名程度 ②小学校訪問 【目的】 高知県中心部のイベントに足を運べない子どもたちも参加できるよう、学校を訪問しスポーツ教室を開催する 【対象】 小学３年生から小学６年生 【回数】県内各地８回以上 【定員】累計300名程度 (2)高知くろしおキッズ ※高知県パスウェイシステム事業（高知くろしおキッズ）のページに記載	(1)マッチングプログラム Ⅰ：「スポーツに出会う」 0 / 1 回 (－人) Ⅱ：「スポーツを体験する」 ①キッズスポーツ体験会 0 / 3 回 (－人) ②小学校訪問 0 / 8 回 (－人) ※参加者累計 (－人) ◆Ⅰ：「スポーツに出会う」 ①11月29日(日)：黒潮カントリークラブ(予定) ◆Ⅱ-１：「キッズスポーツ体験会」 ①未定 ◆Ⅱ-２：「小学校訪問」 ②未定 (2)高知くろしおキッズ ※高知県パスウェイシステム事業（高知くろしおキッズ）のページに記載	(1)マッチングプログラム ・各プログラムにおいてより多くの参加が得られるよう、周知の強化及び内容の充実が必要 ・障害のある子ども達の参加につなげることが必要	(1)マッチングプログラム ・SNS、HPでの周知の強化を図る ・特別支援学校への周知を行う ・開催時期の分散化を行う	○各プログラムごとの実施計画を早期にまとめ、開催案内を効果的に行う

重点事業の取組状況確認資料（令和8年度6月末時点） 【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和８年度末 の目標値	実績 (Ｒ８．６月末時点)	６月末時点の 達成度
スポーツ指導者の育成及びマッチング ※障害者スポーツに関する取組は「障害者がスポーツに親しめる環境づくり」に記載	有資格のスポーツ指導者の養成やスポーツ指導者をマッチングする取組などにより、地域でスポーツを支援する人材を育成・確保する	①高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 → 200人以上／毎年 ②有資格指導者の数：Ｒ４から10％増 a:日本スポーツ協会公認指導者資格 ： 1,419人（Ｒ４）→1,560人 b:日本パラスポーツ協会指導員資格 ： 207人（Ｒ４）→227人 ③全高知チームにおける実践研修の実施 → 全ての全高知チームで実践研修が行われている	①200人以上／年 ②a:1,532人 b:223人 ③10競技団体	①24人 ②a:10月公表 b:３月公表 ③４競技団体	①（Ｄ） ②a:（－） b:（－） ③（Ｄ）

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)スポーツ指導者育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・スポーツ指導者確保推進部会の開催（年２回～３回） ・広域スポーツハブ促進委員会での人材発掘事業の提案 ②指導者の育成 ・全高知チームのトップコーチから学ぶ実践研修（随時） ・日本スポーツ協会公認指導者養成講習会（８月～） ・高知県スポーツ指導者講習会（６月～） ・高知県スポーツコミッションと連携した指導者養成【再掲】 地域で指導する人材向け研修会等の開催（６回） ・大阪体育大学と連携した指導者の養成（10月～） ・パラスポーツ指導員養成講習会（初級）の開催（12月） ・パラスポーツ指導員養成講習会（中級・上級）への派遣 ③指導者のマッチング ・スポーツ団体や市町村等の依頼に応じた指導者を紹介（随時） (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・研修会の開催 （初任者研修会（７月）、県研修会（12月）） ・各地区が行う研修会等への支援（随時）	(1)スポーツ指導者育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・スポーツ指導者確保推進部会の開催 第１回（5/29） ・広域スポーツハブ促進委員会での事業提案 第１回：安芸6/1、高幡６/5、仁淀川6/8、 幡多6/9、物部川6/11、嶺北6/19 ②指導者の育成 ・全高知チームのトップコーチから学ぶ実践研修（随時） ※３競技が実施（６月末） ・日本スポーツ協会公認指導者養成講習会（8月～12月)(予定) (日時未定)(空手・コーチ２) (日時未定)(バレーボール・コーチ１) ・高知県スポーツ指導者講習会（6/7)※受講者：89名 (11/1)(予定) (1/24)(予定) (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・高知県スポーツ推進委員連絡協議会総会（5/19）	(1)スポーツ指導者の育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・指導者一人に負担や責任がかかることがネックになり、指導者を確保しにくい。 ・問題が発生した際の相談窓口の設置や補償制度など、指導者を守る情報提供が必要 ②指導者の育成 ・各種研修により多くの参加が得られるようにすることが必要 (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・スポーツ推進委員が固定化し、高齢化している市町村が多い。	(1)スポーツ指導者の育成及びマッチング ①指導者の掘り起こし ・複数人で活動を支える体制の構築（補助人材の発掘） ・事例などを収集し、研修内容に加え周知を図る ②指導者の育成 ・事前周知を徹底する (2)スポーツ推進委員の活動の活性化 ・県ホームページなどでの活動紹介	○ 新たな人材の発掘 ・市町村や企業等と連携した、保護者や競技団体に登録していない地域の人材（競技経験者等）を対象とした指導者研修会の開催 ・大学生を対象とした子どもへの指導に関する研修会の開催

重点事業の取組状況確認資料（令和8年度6月末時点）【施策の柱① スポーツ参加の拡大】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和８年度末 の目標値	実績 (R８.６月末時点)	６月末時点の 達成度
障害者スポーツ推進事業	障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりや、障害者のスポーツ活動を支援する体制の整備、障害者のスポーツ大会の開催などにより、障害者のスポーツ参加の拡大を図る	①障害者がスポーツ活動をする事ができる団体数 → 37団体 ②障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができているエリアの数 → ６エリア ③発掘の取組により中央競技団体に登録した選手数 → 25人 ④中央競技団体への登録者数 → 220人 ⑤誘致した大会数（R5からの累積数） → 5 ⑥公認パラスポーツ指導員有資格者数 → 227人	① 35団体 ② ５エリア ③ 20人 ④ 215人 ⑤ 5 ⑥ 223人	① 31団体 ② ３エリア ③ 0 ④ 年度末に集計 ⑤ 4 ⑥ 年度末に	① (B) ② (D) ③ (D) ④ (－) ⑤ (C) ⑥ (－)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)障害者スポーツの活動支援 ＜県立障害者スポーツセンターを核とした取組＞ ①地域のスポーツ団体との連携 ・総合型地域SC スクラム(土佐清水市)との連携(7 月～) ・四万十市スポーツ協会との連携(7 月～) ②パラスポーツ指導員の養成 ・パラスポーツ指導員養成講習会（初級）の開催（12月） ・パラスポーツ指導員養成講習会（中級・上級）への派遣 ③全国障害者スポーツ大会 ・中四国ブロック大会への参加支援（4月～6月） ・全国障害者スポーツ大会への派遣（10月/青森県） ④高知県障害者スポーツ大会 ・大会の開催（5月、6月、10月） (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①地域におけるパラスポーツ活動の拠点づくり ・総合型地域SC スクラム(土佐清水市)との連携(7 月～)【再掲】 ・四万十市スポーツ協会との連携(7 月～)【再掲】 ・特別支援学校との連携した拠点づくり ②インクルーシブなスポーツ活動の推進 ・地域でのパラスポーツ体験会の実施（ 5 回） ③市町村が行う障害児のスポーツ活動の充実 ・子どものスポーツ環境整備事業費補助金による財政支援 ④障害者スポーツ大会や合宿の誘致 ・競技団体等と連携した大会・合宿の誘致活動 (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 ・県障害者スポーツ大会で上位入賞した選手と競技団体とのマッチング（ 7 月～） ②全国や世界を目指す強化活動支援 ・特別強化選手や強化助成選手の活動への支援	(1)障害者スポーツの活動支援 ＜県立障害者スポーツセンターを核とした取組＞ ③全国障害者スポーツ大会 ・中四国ブロック大会への支援(4 団体) ・全国障害者スポーツ大会への派遣選手選考会（ 6/10） ④高知県障害者スポーツ大会 ・大会の開催（申込者数656人） (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①地域におけるパラスポーツ活動の拠点づくり ・四万十市での関係者との協議（4/15） ・山田特別支援学校との協議（4/24） ③市町村が行う障害児のスポーツ活動の充実 ・子どものスポーツ環境整備事業費補助金による財政支援（ 1 件） (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 ・障害者スポーツセンターとの協議（6/16） ②全国や世界を目指す強化活動支援 ・強化費による活動支援 特別強化選手： 8 名 強化助成選手：18名 強化助成団体： 8 団体	(1)障害者スポーツの活動支援 ＜県立障害者スポーツセンターを核とした取組＞ ③全国障害者スポーツ大会 ・団体種目はここ数年ブロック予選が突破できておらず、競技力の向上が必要 ④高知県障害者スポーツ大会 ・高知県障害者スポーツ大会の参加者・観戦者を増やす取組が必要 (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①地域におけるパラスポーツ活動の拠点づくり ・地域には競技の専門指導ができるパラスポーツ指導員が少ない (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 ・選手の受入先となる競技団体の活動場所が高知市に多く、選手育成ができる場所が限定的	(1)障害者スポーツの活動支援 ＜県立障害者スポーツセンターを核とした取組＞ ③活動の充実に向け新たな選手確保への支援を検討 ④高知県障害者スポーツ大会 ・大会を特別支援学校の行事にしていなど、学校と連携した参加者の増加 (2)身近な場所におけるスポーツ機会の拡充 ①地域におけるパラスポーツ活動の拠点づくり ・地域で活動する指導者や競技者の活用 (3)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ①有望選手の発掘・育成 特別支援学校との連携を強化しながら新たな拠点づくりを目指す	○各地域における 障害者スポーツの拠点づくりの充実 ・学校や特別支援学校との連携 ・競技団体と連携したパラスポーツ指導員の養成

重点事業の取組状況確認資料(令和8年度6月末時点) 【施策の柱② 競技力の向上】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和８年度末の目標値	実績 (Ｒ８．６月末時点)	６月末時点の達成度
競技力向上に向けた強化事業	競技団体が行う系統的かつ計画的な選手の育成・強化活動を支援するとともに、スポーツ医科学面からのサポートを行うことで、各競技団体の組織的な育成・強化体制の充実や障害者の強化活動の充実を図り、本県の競技力向上につなげる	①全国中学校体育大会の入賞競技数 → ９競技 ②全国高等学校総合体育大会の入賞競技数 → 15競技 ③スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数 → 30競技団体 ④障害者スポーツの発掘事業で選抜する選手数 → 25人	① ８競技 ② 14競技 ③ 28競技団体 ④ 20人	① ０競技 ② ０競技 ③ 12競技団体 ④ 年度末に集計	① (－) ② (－) ③ (D) ④ (－)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・RPDCA（進捗管理シート）による各競技の実状に応じた、育成・強化（全競技） ・全高知チームによる重点強化（10競技） 水泳、陸上、レスリング、ソフトボール、卓球、ライフル射撃、カヌー、バスケットボール、ソフトテニス、弓道 ・特別強化選手を認定した重点強化 ・国民スポーツ大会四国ブロック大会への派遣 ・国民スポーツ大会への派遣 (2)競技団体等における適切な組織運営の促進 ・競技団体やスポーツ少年団における組織運営への支援（通年） - コンプライアンスの遵守 - ガバナンスコードに基づく運営 ※ガバナンスコード：スポーツ団体が適切な組織運営を行う上での原則・規範を示すもの (3)スポーツ医科学の活用 ※スポーツ医科学の活用のページに記載 (4)障害者スポーツにおける全国や世界を目指す選手の育成・支援 ①有望選手の発掘・育成 ・日本パラ陸上競技連盟との連携による、パラアスリート発掘・育成に係る大会・記録会の開催 ②全国や世界を目指す強化活動支援 ・特別強化選手や強化助成選手の活動への支援 (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・高知県アスリート等無料職業相談所の運用 ・アスリート等就職支援バンクへの登録 ・キャリア支援専用WEBサイトの運用	(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・RPDCAシート初期分提出（４月・全40競技団体） ・全高知チームによる強化練習（４月～） ・国民スポーツ大会正式競技における基本的な強化（４月～） ・特別強化選手の認定：12名 ・国民スポーツ大会四国ブロック大会への派遣（６～８月） ・国民スポーツ大会への派遣（青森県）（9～10月） ＊総合成績:一位（R6:38位 → R7:46位） ＊獲得得点:一点（R6:782.5点 → R7:670点） (2)競技団体等における適切な組織運営の促進 ・スポーツ団体に対してガバナンスコードについて説明(4月～5月) (3)スポーツ医科学の活用 ※スポーツ医科学の活用のページに記載 (4)障害者スポーツにおける全国や世界を目指す選手の育成・支援 ○特別強化指定選手の選定（S指定： 7 名、A指定： 1 名） ○県内で活動する団体・個人に対する強化費の助成（４月～）（団体： 8 団体、個人：18人） (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・新担当者による職業紹介責任者講習の受講 ・高知県アスリートキャリア支援センター（無料職業紹介所）の運営 ・アスリートや指導者、企業に対する支援センターへの登録依頼の実施(６月～)	(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・競技力の全体的な底上げに向けて、競技の特性に応じた効果的な強化活動を行うことが必要 (4)障害者スポーツにおける全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ・発掘後に継続して選手をサポートする環境づくりが必要 (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・アスリートキャリア支援センターへの登録企業の掘り起こしの強化が必要	(1)競技の特性に応じた計画的・組織的な育成・強化 ・県外遠征やスポーツ医科学サポートの活用を重視する等、競技の特性に応じた効果的な育成・強化活動を行う ・近年の国スポ等の成績を分析し、各競技団体ごとの育成・強化活動の計画の見直しを行う ・団体種目の強化方法を検討する (4)全国や世界を目指す選手の発掘・育成 ・対象者の実情に応じて、競技団体や地域スポーツクラブ等に協力を求め、継続的に活動・支援ができる体制の構築 (5)アスリートや指導者のキャリア支援 ・アスリートキャリア支援センターへの登録企業数が伸び悩んでいる ・登録企業の掘り起こしに、新たな取組が必要	○積極的に県外遠征を実施している競技団体が好成績を収めていることから、各競技団体における県外遠征を重視した組織的・計画的な強化活動の推進 ○障害者の競技スポーツ活動を支援する体制の強化 ○高知県アスリートキャリア支援センターの仕組みを県内企業や競技団体に広く周知

重点事業の取組状況確認資料（令和8年度6月末時点）【施策の柱② 競技力の向上】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和８年度末 の目標値	実績 (R８.６月末時点)	６月末時点の 達成度
スポーツ医科学の活用	スポーツ現場において行われる、健康増進や競技力向上に向けた技術練習・トレーニングが年齢、体力、競技特性等に応じて、合理的かつ効率的・効果的に行われるよう、スポーツ医科学の見地から様々なサポートを実施する	①スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数 → 30競技団体 ②高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 → 200人以上／毎年 ③高知県スポーツ科学センターと連携する外部スタッフ数 → 35人	① 28競技団体 ② 200人以上／年 ③ 33人	① 12競技団体 ② 24人 ③ 13人	① (D) ② (D) ③ (D)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)パフォーマンス向上支援事業 ①SSC活用強化策年間計画の作成及び進捗管理 ②SSC活用強化策利用競技団体等へのヒアリングの実施 ③体力測定の実施 ④各種サポートの実施 (コンディショニング、栄養、メンタル、映像) (2)研修・支援事業 ①競技団体指導者・医科学コーディネーター等研修(１回) ②地域の指導者やスポーツ拠点のスタッフへの研修(６回) ③SSCサポートスタッフ研修(10回) (3)研究・情報活用事業 ①ホームページによるスポーツ医科学情報(動画を含む)の発信 ②ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)ネットワーク連携機関(体力測定)によるHPSCとの連携 ※HPSC 国立スポーツ科学センターとナショナルトレーニングセンターが持つスポーツ医・科学、情報等による研究、支援及び高度な科学的トレーニング環境を提供する組織 (4)高知県スポーツ科学センター推進協議会 ①事業改善の提案及び助言、管理運営の状況を適切に評価 ②年間２回の実施(７月、３月)	(1)パフォーマンス向上支援事業 ①R８強化策活用競技団体：21競技団体(26競技種別)・年間計画作成完了(24/26団体) ②SSC活用強化策利用競技団体等へのヒアリングの実施(４月～) ③体力測定の実施(体力測定合計345人) 【月別利用人数】 ４月(127人) ５月(108人) ６月(109人) 【測定別利用人数】 一般体力測定(13人) 専門体力測定(332人) ④各種サポートの実施(サポート合計1,382人、281回) 【月別利用人数】 ４月(348人) ５月(600人) ６月(434人) 【サポート種別利用人数】6月末見込み コンディショニング 1,092人(263回) 栄養 128人(9回) メンタル 140人(6回) 映像 22人(3回) (2)研修・支援事業 ③SSCサポートスタッフ研修（計：42人） ５月(24人) ６月(18人) (3)研究・情報活用事業 ①Instagramを活用して広報活動を実施（４月～） ②SSC利用者に対してQRコードを活用したアンケートの実施（４月～） ③SSCの測定を活用した高知県スポーツドクター協議会所属医師との研究連携 (4)高知県スポーツ科学センター推進協議会 第１回（7/10）	(1)パフォーマンス向上支援事業 ・SSCを組織的に活用する競技団体が増え、全国大会や国際大会で入賞する選手は着実に増加しているが、年間計画を作成して計画的にSSCを活用する競技団体をさらに増やすことが必要 ・活用する競技団体において、利用の頻度やサポート内容の増加が図られ、より効果的な活用ができるよう支援することが必要 (2)研修・支援事業 ・各種研修に、より多くの参加が得られるようにすることが必要	(1)パフォーマンス向上支援事業 ・競技力向上の効果を丁寧に説明し、積極的な活用を促す ・現場に出向いての指導助言を行う出張サポートなど、利用しやすい運用を行う ・具体的な年間計画案をSSCから提示したうえで、指導やサポート等を行う (2)研修・支援事業 ・各研修の実施計画を早期にまとめ、開催案内を効果的に行う	○活用できていない競技団体に競技力向上の効果を丁寧に説明し、医科学サポートの積極的な活用の促進 ○現場に出向いて指導助言を行う出張サポートのさらなる拡充 ○スポーツ科学センターのさらなる運用体制の強化

重点事業の進捗状況確認資料（令和8年度6月末時点） 【施策の柱② 競技力の向上】

事業名	事業概要	令和９年度末の到達目標	令和８年度末の目標値	実績 (R８.６月末時点)	６月末時点の達成度
高知県パスウェイシステム事業 （高知くろしおキッズ）	県内の運動能力に優れた小学生を発掘し、さらに運動能力を高めるトレーニングや競技プログラムを実施するなど、将来有望な選手を発掘・育成し、県内の競技団体につなげる	高知くろしおキッズに応募する子どもの数 →200人	189人	一人	(一)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1)マッチングプログラム ※高知県パスウェイシステム事業（マッチングプログラム）のページに記載 (2)高知くろしおキッズ R８ 在籍者数：４年生24名　５年生31名　６年生27名 計82名 ◆育成プログラム ①トレーニングプログラム(４回) ②競技プログラム(15回程度) ③知的プログラム(2回以上) ④合宿プログラム(全学年１回)(６年生のみ１回) ⑤スペシャルプログラム(１回) ◆特別プログラム ①四国交流プログラム(５年生のみ) ※R８は高知県で実施予定 ◆ちゃれんじ選考会 ①ちゃれんじ１(３回) ②ちゃれんじ２(２回) ◆その他のプログラム ①認定式(4/26) ②修了式(3/7) ③保護者プログラム ④体力測定（7/25、26　8/1、2） ◆その他の取り組み ①広報活動 ・活動内容やイベントの情報発信(SNSの活用) ②育成プログラムの充実を図る取組 ・宿題トレーニング・実施プログラムの動画配信、資料提供 ・プログラム検討会の実施 ・現キッズ、修了生、保護者へのアンケートの実施	(1)マッチングプログラム ※高知県パスウェイシステム事業（マッチングプログラム）のページに記載 (2)高知くろしおキッズ ◆育成プログラム ①トレーニングプログラム(2/4回) ・リズムトレーニング(4/26)　・ストレッチ＆トレーニング(5/9) ②競技プログラム ・４年生(5回)(スポーツ鬼ごっこ、ラグビー、ライフル射撃、野球・ソフトボール、バスケットボール) ・５年生(5回)(スポーツ鬼ごっこ、ラグビー、ライフル射撃、野球・ソフトボール、バスケットボール) ・６年生(4回)(スポーツ鬼ごっこ、野球・ソフトボール、ライフル射撃、ハンドボール) ③知的プログラム(2/2回) ・スポーツ栄養学＆ペップトーク(4/26) ・ストレッチ＆トレーニング(5/9) ④合宿プログラム ・夏期合宿全学年：梶原他(7/18～20)予定 ・大阪体育大学合宿６年生(９/19～21)予定 ⑤スペシャルプログラム ◆特別プログラム ①四国交流プログラム5年生：高知県開催(10/25)予定 ◆その他のプログラム ①認定式(4/26)、修了式(3/7)予定 ②保護者プログラム ③体力測定(SSC)（7/25、26　8/1、2)予定 ④選考会（１次：12/5、12、19)予定 （２次：1/17、24)予定 ◆その他の取り組み ①広報活動 ・活動内容やイベントの情報発信(SNSの活用)(週１回程度) ②育成プログラムの質の向上(各プログラム後実施) ・宿題トレーニング・実施プログラムの動画配信、資料提供(随時)	＜昨年度の課題＞ (2)高知くろしおキッズ ・全てのキッズの能力の向上に向けて、効果的な運営やプログラム内容の充実を図ることが必要 ・年間を通してキッズのモチベーションを高める工夫が必要 ・学年が上がるにつれ自所属チームの主力となり、大会とプログラムの日程が重なり、欠席する場合がある	(2)高知くろしおキッズ ・講師とプログラム内容や進行などに関する事前確認を徹底するとともに、プログラム検討会において内容の検証・検討を行う ・毎回のプログラムの振り返りや活動の様子を複数のスタッフで確認しながら、キッズの意識の変化を捉えて、アプローチの仕方や方法を工夫する ・大会等でプログラムを欠席した場合は、個々に出場した大会の振り返りを動画で提出する等、きめの細かい宿題プログラムを実施する	○キッズの意識を高めるプログラム内容や体験プログラムの種目を見直して実施

重点事業の取組状況確認資料（令和8年度6月末時点）【施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり】

事業名	事業概要	令和9年度末の到達目標	令和8年度末 の目標値	実績 (R8.6月末時点)	6月月末時点 の達成度
プロスポーツ・アマチュア スポーツの誘致	プロ・アマチュアスポーツのキャンプや合宿、大会の誘致を推進し、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる	1 スポーツによる県外からの入込客数：12万人 【内訳】 ① プロのキャンプ・大会：8万人 ② アマチュアスポーツ合宿：1万人 ③ スポーツ大会：3万人 2 地元プロチーム等のホーム戦の県内外からの入込客数 高知FD：1.2万人 高知USC:5万7千人（3千人×19試合）	1：10.5万人 【内訳】 1-①：7.0万人 1-②：0.9万人 1-③：2.6万人 2：高知FD：1万人 高知USC：5万7千人（3千人×19試合）	1：33,318人 【内訳】 1-①：16,055人 1-②：2,838人 1-③：14,425人 2：高知FD：3,405人 高知USC：1,655人	1：(D) 【内訳】 1-①：(D) 1-②：(D) 1-③：(D) 2： FD：(D) USC：(D)

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1) プロ・トップチームの誘致等 ① 既存チーム継続に向けた誘致 ・KVCAや市町村と連携した誘致活動や受入体制の強化 ② 新規チームの誘致 ・KVCAやスポーツコミッション、競技団体等と連携したBリーグ、SVリーグなどの屋内スポーツや、スケードボードなどのアーバンスポーツなどの新たなチーム・種目の誘致 ③ 高知ファイティングドッグス、高知USCとの連携 ・ホーム戦観客者増に向けた委託業務 ・チームと連携した「どっぶり高知旅」のPR等 (2) アマチュアスポーツの誘致 ① 合宿・大会の誘致 ・KVCAや競技団体等と連携した既存チームの誘致 ・他部局、県外事務所と連携した誘致 ② スポーツ大会の開催支援 ・市町村等へのKVCAの助成制度の周知 ・高知県スポーツ合宿ワンストップ窓口の周知 ・「スポる！KOCHI」による情報発信（開催案内等） (3) その他 ・KVCAとの戦略会議（毎月） ・スポーツツーリズムによる経済効果の算出・公表	(1) プロ・トップチームの誘致等 ① 既存チーム継続に向けた誘致 ・オリックスバファローズ（高知フェア開催 4/14） ・西武ライオンズ（知事トップセールス・高知フェア開催 7/14） ② 新規チームの誘致 ・Bリーグ、SVリーグの関西圏チームへのプレシーズンマッチ誘致活動 ③ 高知ファイティングドッグス、高知USCとの連携 ・ホーム戦観客者増等に関する委託業務締結（4/1） ・高知ファイティングドッグス庁内販売（4/17）、庁内放送（随時） ・阪神タイガース、高知ファイティングドッグス交流イベント（4/23） ・高知ファイティングドックスホーム戦県内・県外向けSNS PR（随時） ・高知ファイティングドックスビジター戦（福岡、兵庫 ほか）で観光PR等 ・高知USC 活動支援（ふるさと納税実施等）（4月～6月） ・高知USCホーム戦県内・県外向けSNS PR（随時） ・高知USCホーム戦で観光PR等 (2) アマチュアスポーツの誘致 ・県スポーツ協会や県内競技団体、各市町村観光協会等へ「高知県スポーツ合宿ワンストップ窓口」や助成情報の案内（5月） (3) その他 ・KVCAとの戦略会議（4月～）	(1) プロ・トップチームの誘致等 ・屋内競技におけるプロ・トップチームの試合観戦に係る機運醸成が十分でない ・プロキャンプ観戦者の増加に向けた受け入れ体制の充実が必要 ・スポーツ施設の老朽化への対応が必要 ・キャンプ等の受入が可能な宿泊施設の確保が必要 ・実施時期の分散化が必要 ・地元プロスポーツチームのホーム戦観客者数確保のための対策が十分でない (2) アマチュアスポーツの誘致 ・スポーツ施設の老朽化への対応が必要 ・合宿等の受入が可能な宿泊施設の確保が必要 ・実施時期の分散化が必要 ・高知県スポーツ合宿ワンストップ窓口の更なる周知が必要	(1) プロ・トップチームの誘致等 ・屋内競技の試合開催に係る広報活動や効果的な試合演出の実施による試合観戦の運醸成 ・キャンプ会場での飲食ブースや観光PRの継続実施（市町村や観光協会と連携） ・施設管理者等との改修に向けた協議の継続 ・旅館組合等との協議の継続 ・KVCAや市町村、関係機関と連携した戦略的な誘致活動の実施 ・ホーム戦観戦に係る新規顧客獲得に向けた取組強化 (2) アマチュアスポーツの誘致 ・施設管理者等との改修に向けた協議の継続 ・旅館組合等との協議の継続 ・集落活動センター等を活用した中山間地域での宿泊施設の確保の検討 ・KVCAや市町村、関係機関と連携した戦略的な誘致活動の実施 ・スポる!KOCHIや関係機関等と連携した情報発信の強化	○屋内競技など新たなプロ・アマチュアスポーツチームの継続誘致 ○地元プロスポーツチームと連携したスポーツツーリズムの推進

重点事業の取組状況確認資料（令和8年度6月末時点） 【施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり】

事業名	事業概要	令和9年度末の到達目標	令和8年度末 の目標値	実績 (R8.6月末時点)	6月月末時点 の達成度
地域の特色を活かした スポーツツーリズムの推進	地域の特色を活かしたスポーツツーリズムを推進し、 地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技 力の向上につなげる	1 スポーツによる県外からの入込客数 ：12万人 2 「スポる！KOCHI」のセッション数 ：182,500セッション以上	1：10.5万人 2：164,250セッション以上	<u>1：33,318人</u> <u>2：48,381セッション</u>	<u>1：(D)</u> <u>2：(D)</u>

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた 見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・KVCAや市町村と連携した開催支援（助成金、情報発信） ・「スポる！KOCHI」による情報発信 (2) サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングアプリを活用した県内でサイクリングを行う県外サイクリストの状況に係る定量的な把握 ・ぐるっと高知サイクリングロードのPR（展示会出展等） ・サイクルオアシス登録店の見直し、設備の拡充（サイクルスタンド、空気入れ、ノボリ設置等の見直し） ・四国4県連携（1,000kmチャレンジの推進、協議会発足10周年に向けた国内外における展示会出展等でのPRの強化） ・セトウチヴェロの協議会（中四国連携） ・「スポる！KOCHI」による情報発信（体験記、コース紹介等） (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・安心安全な大会運営 ・定員1万人（フルマラソン）を超えるエントリーの確保等	(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・市町村への周知（4月～） （助成制度、スポる！KOCHI） (2) サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングアイランド四国会議（5/15） ・セトウチヴェロ担当者会議in岡山（5/27） (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・第1回高知龍馬マラソン総会（6/22） ・参加賞Tシャツデザイン募集（6/1～7/31） ・ランナー募集（8/1～10/31）	(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・地域の担い手の確保が必要 ・情報発信の強化が必要 (2) サイクルツーリズムの推進 ・県内サイクリストの状況に係る定量的な把握 ・インバウンドの対応に必要な受入れ環境の整備 ・サイクルオアシス設置施設の拡大 ・四国4県連携事業を活用したインバウンド誘致の強化 (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・安定的な参加者確保のための対応策が必要 ・人件費や物価の高騰に対応した新たな運営費の確保策が必要 ・持続可能性の担保のため、ボランティアの確保等に係る対策が必要	(1) 自然を活かしたスポーツツーリズムの推進 ・市町村等との連携強化 (2) サイクルツーリズムの推進 ・県内サイクリストの動向調査を基にした新たな取組を検討 ・市町村、関係機関と連携した戦略的な推進活動の実施 ・四国4県連携事業のインバウンド誘致に向けた関係団体等とのさらなる連携 (3) 高知龍馬マラソンの開催 ・SNSの効果的な活用や県内外のスポーツイベント等へのブース出展等により、周知を強化 ・大会ゲストを活用した情報発信を実施 ・新規協賛企業の獲得 ・新規団体へのアプローチによるボランティアの確保 ・参加ランナーの声を踏まえた大会運営の改善	○動向調査を基にした新たな サイクルツーリズムの推進 ○新たな収入やボランティア確保策の検討による 高知龍馬マラソンの継続開催

重点事業の取組状況確認資料(令和8年度6月末時点) 【施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり】

事業名	事業概要	令和9年度末の到達目標	令和8年度末の目標値	実績 (R8.6月末時点)	6月月末時点の達成度
スポーツを通じた国際交流	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン等で関係を構築した国等との相互交流や、国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受け入れにより、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる	海外とのスポーツ交流が継続的に行われている。	—	—	—

【P(Plan)】	【D(Do)】	【C(Check)】	【A(Action)】	次年度に向けた見直しの方向性
当初計画	これまでの取り組み状況	見えてきた課題	見えてきた課題に対する改善策	
(1) ホストタウン等の国等との相互交流 ・シンガポールスポーツスクールへ訪問（7月） (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・国際大会等の関係機関からの情報収集 ・第20回アジア競技大会および第5回アジアパラ競技に向けたホストタウン国への事前合宿の誘致活動 ＜シンガポール・キルギス＞ 大使館への事前合宿の案内送付	(1) ホストタウン等の国等との相互交流 シンガポールスポーツスクールへ訪問 ・受託事業者との契約（5/21） ・関係者との協議・調整（4月～） ・選手団（バドミントン、卓球）が訪問予定（7/20～26） (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・シンガポール・キルギス大使館への事前合宿の案内送付（5月）	(1) ホストタウン等の国等との相互交流 ・連携協定を締結していない競技団体などの海外チームとの交流を促す取組が必要 (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・受入体制の充実及びチームとのコミュニケーションの充実	(1) ホストタウン等の国等との相互交流 ・関係団体と連携強化 ・スポーツだけでなく他分野での交流促進 ・競技団体などが行う海外との相互交流を支援する制度を検討する (2) 海外チームの事前合宿等の誘致 ・施設側との連携及びチームとのコミュニケーションの強化	○スポーツを通じた国際交流の拡大に向けた支援の充実

令和 8 年度 各部局のスポーツ関連施策の取組状況

○第 3 期高知県スポーツ推進計画の総括評価基準

評価区分	達成状況
S	数値目標の達成率 110%以上
A	// 100%以上110%未満
B	// 85%以上100%未満
C	// 70%以上 85%未満
D	// 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

令和8年6月末時点

令和8年度 各部署のスポーツ関連施策の取組状況

担当部署 (担当課)	施策の柱 施策の方向性 事業実施計画	令和8年度の当初計画	令和8年度の取り組み状況 【令和8年6月末時点】	課題と今後の取り組み予定	目指すべき姿 (令和9年度の到達目標)	令和8年度の 到達目標に対する 令和8年6月 末の到達状況
総合企画部 (中山間地域対策課)	【施策の柱】 スポーツを通じた活力ある県づくり 【施策の方向性】 (4) 産学官民によるスポーツを支える体制の充実 【具体的な施策】 33ページ	(1) 集落活動センター推進事業費補助金 ・補助制度（センター立ち上げの際の初期投資や、既存センターでの取り組みの拡充等を支援）を活用し、スポーツ合宿の受入体制整備を支援 (2) 集落活動センター等への誘客の仕組みづくり ・観光振興スポーツ部等と連携し、スポーツ合宿の受け入れに向けたPRを実施 ・関係人口創出プロジェクト「いこうち！」を活用したボランティアスタッフの募集	(1) 集落活動センター推進事業費補助金 ・地域本部等を通じて、市町村や集落活動センターに補助制度を周知 ⇒現時点で補助制度の活用なし（スポーツ合宿関連） (2) 集落活動センター等への誘客の仕組みづくり ・土佐巡里の配布によるPR 東京事務所、大阪事務所、県内の観光施設（4月） 地域本部、県内の観光施設（5月） 県内の観光施設（6月） ・ボランティアスタッフ募集によるスポーツ大会などの運営サポート 「いこうち！」実施プログラム GO～郷～ウォーキング（4月・黒潮町） いごっそうアクアスロン大会（7月・黒潮町） 【受入実績（6月末見込み）】 ①宿泊（3施設）※一般の受け入れ含む 集落活動センターであいの里蜷川（※延べ0人泊） 集落活動センターかきせ（※延べ0人泊） 集落活動センターおちめん（※延べ358人泊） 合計 延べ358人泊 ②食の提供（3施設） ＜土佐西南大規模公園＞ 集落活動センター佐賀北部（※延べ0回0食） 集落活動センター北郷（※延べ10回407食） 集落活動センターであいの里蜷川（※延べ3回137食） 合計 延べ13回544食	(1) 集落活動センター推進事業費補助金 既存センターにおいては、マンパワー不足により、これ以上のスポーツ合宿の受け入れは難しい状況。 今後、新たにスポーツ合宿などの宿泊事業を検討するセンターに対しては、補助制度を活用した施設整備を提案し、受入体制の充実を図る。 (2) 集落活動センター等への誘客の仕組みづくり スポーツ合宿は夏休みや冬のオフシーズンに集中しており、受入数をさらに拡充していくためには、合宿の分散化に向けた誘致が必要。 引き続き、市町村や観光振興スポーツ部と連携したPRを実施することで、宿泊施設としての認知度の向上を図り、通年における宿泊受入数の増加に取り組む。 また、スポーツ大会の運営に係るスタッフが不足しているため、ボランティア募集により運営体制の強化を図る。	◆スポーツによる県内の交流人口が拡大している ◆スポーツによる県外からの誘客が増加している KPI:延べ宿泊者数 R9：4,000人 【参考：過去実績】 ①宿泊 R5年度：3,611人 R6年度：3,947人 R7年度：3,819人 ②食の提供 R5年度：10,049人 R6年度：11,176人 R7年度：7,321人	—
総合企画部 (交通運輸政策課)	【施策の柱】 スポーツ参加の拡大 【施策の方向性】 (3) 障害者がスポーツに親しめる環境づくり 【具体的な施策】 22ページ	(1) 地域公共交通支援事業費補助金 ①生活交通路線を運行する乗合バス事業者及び市町村に、低床車両導入に対する補助を実施（R8当初要望 購入10両、低床化改造0両） ②バス停留所・鉄道の駅舎のバリアフリー対応に対する補助を実施（R8当初要望なし） (2) バス運行対策費補助金 複数市町村を横断し運行を行う乗合バス事業者に、低床車両導入に対する補助を実施（R8当初：8両）	(1) 地域公共交通支援事業費補助金 ①生活交通路線を運行する乗合バス事業者及び市町村に、低床車両導入に対する補助を実施 ○車両購入（当初要望10両） ・申請状況：6両の申請あり ・残4両についてはR8.7月～9月に申請予定 ・導入予定時期：R8.12月～R9.3月 ○低床化改造（当初要望0両） ・申請状況：0件 ・導入予定時期：なし ②バス停留所・鉄道の駅舎のバリアフリー対応に対する補助を実施 補助制度について、地域ブロック別WGにおいて周知。 ○バス待合所トイレのバリアフリー化（当初要望なし） (2) バス運行対策費補助金 複数市町村を横断し運行を行う乗合バス事業者に、低床車両導入に対する補助を実施 車両購入（R8当初要望8両） ・要望のとおり、8両の低床車両導入予定 とさでん交通：4両 高知西南交通：1両 高知東部交通：2両 ジェイアール四国バス：1両	(1) 地域公共交通支援事業費補助金 ①低床車両導入に対する補助 本県の低床車両導入率は、事業者にも車両を購入するだけの資金余力がないなどの要因もあり、49.30%と四国平均（65.70%）を下回る状況（R6.3末時点）。 令和8年度も導入が進むものの、依然として導入率は低調であることから、事業者に対して、引き続きバリアフリー化の意義や乗降時の安全性の向上、乗務員の負担軽減といった効果など、バリアフリーに関する意識の醸成を図り、低床車両の導入を促進する。 ②バス停留所・鉄道の駅舎のバリアフリー対応に対する補助 事業者から市町村に対して補助の要望はあるものの、補助にあたって費用負担が生じることが市町村が二の足を踏む原因となっている事例あり。 地域ブロック別WG等、機会を捉えて取組の趣旨、効果の周知徹底を図ることにより、バリアフリー化を進めていく。 (2) バス運行対策費補助金 (1) ①と同じ	◆障害者のスポーツ参加が拡大している (1) 地域公共交通支援事業費補助金 【参考：過去実績】 R6年度： 購入5両 改造3両 R7年度： 購入5両 改造0両 (2) バス運行対策費補助金 【参考：過去実績】 R5年度：9両 R6年度：10両 R7年度：8両	—

令和8年度 各部局のスポーツ関連施策の取組状況

担当部局 (担当課)	施策の柱 施策の方向性 事業実施計画	令和 8 年度の当初計画	令和 8 年度の取り組み状況 【令和 8 年 6 月末時点】	課題と今後の取り組み予定	目指すべき姿 (令和 9 年度の到達 目標)	令和 8 年度の 到達目標に対する 令和 8 年 6 月末の 到達状況
健康政策部 (保健政策課)	【施策の柱】 スポーツ参加の拡大 【施策の方向性】 (6) スポーツを通じた健康増進や生きがいづくり 【具体的な施策】 25ページ	高知家健康パスポートと連携したスポーツ参加機会の拡充 ①健康パスポート事業を活用した総合型地域スポーツクラブの利用促進 ・アプリやHPでの広報 ②スポーツイベント等でのインセンティブの提供（ヘルシーポイント付与） ・ウォーキング大会等のスポーツイベントへの参加や、県内運動施設利用でヘルシーポイントを付与 ③健康パスポートアプリによるウォーキングの促進 ・1日に8,000歩（65歳以上は6,000歩）以上歩くなど日常の健康づくりに対してヘルシーポイント付与 ・個人の歩数目標設定機能によりそれぞれの活動レベルに応じた健康づくりを支援 ・アプリを活用したウォーキングイベント等の実施（年間3回実施予定） ④健康パスポートアプリのお知らせ通知機能を活用した、健康行動の勧奨に関する情報発信 ・市町村及び県からアプリユーザーに対するスポーツイベント等の情報発信 ⑤働きざかりへの総合啓発の実施 ・健康づくりひとくちメモ等による啓発 ※KPI（R 8 年度目標値）： ・パスポートアプリダウンロード件数（男性）→26,200件 ・日常生活における歩数20-64歳（男女）：8,000歩 65歳以上（男女）：6,000歩 ※代替指標（県民世論調査）：1日の平均歩数8,000歩未満の割合減少	高知家健康パスポートと連携したスポーツ参加機会の拡充 ①健康パスポート事業を活用した総合型地域スポーツクラブの利用促進 ・アプリやHPでの広報 →スポーツクラブ利用者によるヘルシーポイント付与 R 8 年（5月末時点）：のべ3,292人 ②スポーツイベント等でのインセンティブの提供（ヘルシーポイント付与） ・ウォーキング大会等のスポーツイベントへの参加や、県内運動施設利用でヘルシーポイントを付与 →のべ36,502人が参加・利用（5月末時点） ③健康パスポートアプリによるウォーキングの促進 ・1日に8,000歩（65歳以上は6,000歩）以上歩くなど日常の健康づくりに対してヘルシーポイント付与 ・個人の歩数目標設定機能によりそれぞれの活動レベルに応じた健康づくりを支援 ・アプリを活用したウォーキングイベント等の実施 9月：健康チャレンジコラボイベント（個人） 11月：四国対抗ウォーキングイベント（個人） ※他イベントは日程調整中 ④健康パスポートアプリのお知らせ通知機能を活用した、健康行動の勧奨に関する情報発信 ・市町村及び県からアプリユーザーに対するスポーツイベント等の情報発信：2回（5月末時点） ⑤働きざかりへの総合啓発の実施 ・健康づくりひとくちメモ（運動編）：テレビ放送4回 ※KPI： ・パスポートアプリダウンロード件数（男性）（R 8 年 4 月末）→26,276件 ・日常生活における歩数（R 7 年度） ※代替指標（県民世論調査）：1日の平均歩数8,000歩未満の割合：69.1%	高知家健康パスポートと連携したスポーツ参加機会の拡充 【課題】 ・男女とも歩数が少なく、全国平均を下回っている。 ・アプリダウンロード件数は順調に増加しているが、女性に対して男性の件数が少ない。 【今後の取り組み予定】 ・イベント拡充によりアクティブユーザーを増やし、運動の取り組みを後押しする。	◆健康管理に取り組む人が増え、運動習慣など保健行動の定着が図られている （R 9 年度目標） ・パスポートアプリダウンロード件数（男性）：27,100件 ・日常生活における歩数20-64歳（男女）：8,000歩 65歳以上（男女）：6,000歩 【参考：過去実績】 R 7 年度 ・パスポートアプリダウンロード件数（男性）→25,686件 ・日常生活における歩数<20～64歳>代替指標（県民世論調査：1日の平均歩数8,000歩未満の者の割合）（R 7） - 男性：81.0% - 女性：86.1% <65歳以上>代替指標（県民世論調査：1日の平均歩数6,000歩未満の者の割合）（R 7） - 男性：75.8% - 女性：77.5% ※R6年度以降の目標値は「第5期日本一健康長寿県構想」（R6～R9）に準ずる	・パスポートアプリダウンロード件数（男性）：B（進捗率100.2%）

令和8年度 各部局のスポーツ関連施策の取組状況

担当部局 (担当課)	施策の柱 施策の方向性 事業実施計画	令和 8 年度の当初計画	令和 8 年度の取り組み状況 【令和 8 年 6 月末時点】	課題と今後の取り組み予定	目指すべき姿 (令和 9 年度の到達 目標)	令和 8 年度の 到達目標に対する令 和 8 年 6 月末の到達 状況
子ども・福祉政策部 (長寿社会課)	【施策の柱】 スポーツ参加の拡大 【施策の方向性】 (1) 身近な地域 でスポーツに親しめる 場の拡充 (6) スポーツを通 じた健康増進や生き がいづくり 【具体的な施策】 20、25ページ	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業 高齢者が健康で生きがいをもって社会生活ができるよう な各種取り組みを支援することにより、高齢者福祉の 推進を図る。 ①こうちシニアスポーツ交流大会の開催 ・種目別競技会（20種目）の開催 （4/19～5/31） ②ねんりんピックへの選手派遣支援 （高知県社会福祉協議会への補助金交付） ・ねんりんピック彩の国さいたま2026 開催期間11/7～11/10 総合開会式（11/7） 競技会（11/7～11/10） ③ろうれんピック開催支援 （県老人クラブ連合会への補助金交付） ・開催日 東部大会（安芸市） 室内競技 5/21 屋外競技 10/1 中部大会（高知市） 室内競技 6/10 屋外競技 10/14 西部大会（宿毛市） 室内競技 5/29 屋外競技 10/29	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業 ①こうちシニアスポーツ交流大会の開催 種目別競技会（4/19～5/31） 17種目（健康マージャン、囲碁、将棋を除く） ・参加者数822人 【4/25】剣道 【5/6】ペタンク 【5/10】ボウリング 【5/14】水泳、マラソン、ゲートボール、 ターゲット・バードゴルフ、グラウンド・ゴルフ、 卓球、太極拳、ソフトボール（1日目）、 ソフトテニス、テニス 【5/15】ソフトボール（2日目）、パークゴルフ 【5/16】弓道 【5/31】バウンドテニス、ソフトバレーボール ②ねんりんピックへの選手派遣支援（予定） ねんりんピック彩の国さいたま2026(11/7～11/10) ・総合開会式（11/7） 競技会（11/7～11/10） ③ろうれんピック開催支援 東部大会（安芸市） 5/21・10/1（予定） 中部大会（高知市） 6/10・10/14（予定） 西部大会（宿毛市） 5/29・10/29（予定）	高齢者の生きがいと健康づくり 推進事業 こうちシニアスポーツ交流大会や ろうれんピックについては、新型コロ ナウイルス感染症拡大により大幅 に減少した参加者数が回復して いない。 高齢者の継続的な健康づくりを 推進するため、引き続き各市町 村の老人クラブにおける健康づくり や介護予防の取り組みを支援す る。	◆スポーツを通しての交 流を図り、健康づくりや 介護予防につなげる。 高齢者が健康で生き がいをもって社会生活 ができるようになる 【参考値】 ・こうちシニアスポーツ交 流大会の参加者* R5年度：949人 R6年度：892人 R7年度：838人 *17種目（健康マー ジャン、囲碁、将棋を 除く）	—
土木部 (公園上下水道課)	【施策の柱】 スポーツ参加の拡大 【施策の方向性】 (1) 身近な地域 でスポーツに親しめる 場の拡充 【具体的な施策】 20ページ	(1) 春野総合運動公園の整備 ・園路：バス等停留所の整備 (2) 室戸広域公園の整備 ・野球場 スコアボードの改修設計 ダグアウトの改修 (3) 土佐西南大規模公園(大方)の整備 ・テニスコート：コートの改修 ・体育館：照明のLED化	(1) 春野総合運動公園の整備 ・バス等停留所：入札手続き中（公告中） （ 8 月契約予定） (2) 室戸広域公園の整備 ・野球場 スコアボード：入札手続き中（公告中） ダグアウト：発注準備中 （ 8 月契約予定） (3) 土佐西南大規模公園(大方)の整備 ・テニスコート：工事中 ・体育館：入札手続き中（公告中） （ 7 月契約予定）	・施設利用期間と工事期間の 日程調整	着実に整備等を進めて いく。 【参考：過去実績】 R7年度 春野総合運動公園 屋内練習場整備	—

令和8年度 各部局のスポーツ関連施策の取組状況

担当部局 (担当課)	施策の柱 施策の方向性 事業実施計画	令和 8 年度の当初計画	令和 8 年度の取り組み状況 【令和 8 年 6 月末時点】	課題と今後の取り組み予定	目指すべき姿 (令和 9 年度の到達 目標)	令和 8 年度の 到達目標に対す る令和 8 年 6 月 末の到達状況
教育委員会 (保健体育課)	【施策の柱】 スポーツ参加の拡大 【施策の方向性】 (1) 身近な地域 でスポーツに親しめる 場の拡充 【具体的な施策】 19ページ	部活動の地域展開等に向けた取組の推進 公立中学校の部活動の地域展開（これまでの地域移行）に向けて、策定した県の方針等に基づき、市町村や関係団体と連携しながら県内における取組を本格的に推進する。 また、顧問に代わり専門的な指導ができる部活動指導員の適切な配置を進めることで、教員の負担軽減を一層図るとともに、生徒が専門的な指導を受けられる環境を整備する。 【R 8 目標】 拠点校部活動：10部活動 地域クラブ：50クラブ 【参考：国の動向】 令和 7 年12月「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」にて、『令和 8 ～13年度を部活動改革実行期間とし、休日については原則、全ての学校部活動において地域展開（地域移行）の実現を目指す』ことが示された。 その他、令和 7 年6月に教職員の給特法改正により、令和11年度までに時間外勤務を平均月30時間程度に削減する目標が定められ、部活動改革の必要性が高まっている。	部活動の地域展開等に向けた取組の推進 ①部活動地域展開等推進事業 ○部活動地域展開等推進事業費補助金 ・休日の地域クラブ活動の活動費等の支援 7市町村 ・推進体制の整備等 6市町村 ・平日を含めた地域展開等の加速化 7市町 【地域クラブ数・拠点校部活動数】 (R8.5月) 拠点校部活動：25部活動（R7: 9部活動） 地域クラブ：65クラブ（R7：46クラブ） ②運動部活動指導員配置事業 ○運動部活動指導員の配置状況（R8.5月） ・高等学校：21校57人 ・県立中学校：3校7人 ・市町村立中学校: 20市町村76人 ※申請数 ・合計：140人 ・県立学校への配置に係る研修（7月）	部活動の地域展開等に向けた取組の推進 ①部活動地域連携等支援事業 【課題】 ・地域展開の受け皿となるスポーツ団体等の不足 ・移動手段の確保 【今後の取組】 ・各市町村の実情に応じた取組ができるよう、補助金を効果的に活用し、単独自治体での対応が困難な事例に対する市町村間をまたいだ広域的な取組や、移動手段の確保に向けた体制整備等の支援を行う。 ○高知県における部活動地域展開等に関する市町村協議会（7/14） ②運動部活動指導員配置事業 【課題】 <u>地域での指導者不足</u> 、指導者の質の確保 【今後の取組】 大学との連携を含め、指導者確保の拡充に向けた協議・検討を行う。 また、各種研修により、指導者の質の確保・向上を図る。 ・大学との連携 ・指導力向上研修会	◆県内全市町村が、地域の実情に応じた部活動改革の取組を実施することで、子どもたちのスポーツ活動の機会確保につながっている 【参考：過去実績】 R 5 拠点校部活動：0 地域クラブ活動：5 R 6 拠点校部活動：4 地域クラブ活動：25 R 7 拠点校部活動：9 地域クラブ活動：46 ◆生徒が部活動において、専門的な指導を受けられることができる体制が整備されている 【参考：過去実績】 R 5：132人 R 6：136人 R 7：126人	S